

科目名	論理学	担当教員	石橋 敏郎
-----	-----	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		1982年より、熊本女子大学生生活科学部、1994年より熊本県立大学総合管理学部にて、主として社会保障関係の講義を担当する傍ら、アドミニストレーション研究科（大学院）にて、論理的思考、論文の書き方などを指導した。									
授 業 概 要		最初は、論理的思考とは何か、創造力の必要性、わかりやすく説明したり、誰にでも理解できるような文章力を身につけるために何が必要かを講義するが、後半では、実際に、論文を読んだり、あるいはあるテーマについて自分で文章を書く訓練を行う。									
到 達 目 標		物事を筋道立てて考える能力（論理的思考力）、自分の頭で考える能力（創造力）、自分の考えを分かりやすく伝える能力（発言力、プレゼンテーション能力）、わかりやすい文章を書く能力（文章力）を身につけさせる。									

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	何のために学問は必要なのか。	高等教育機関に進学する理由は何か。
2	頭が良い人とはどういう人のことをいうのか。	頭が良いとか、優秀とか言われる人は、単なる「ものしり」とは違う。
3	組織の基本はなんと言っても人材である。	いま、社会が求めている人材とはどのような人か。
4	多角的な視点からものごとを見る能力を身につけよう。	「こうのとりにゆりかご」と多角的視点。
5	学問はまず「気付くこと」から始まる。	職場や社会で、どうしてだろうかと疑問に思うことや、おかしいなあと思うことはないだろうか。
6	ものごとを筋道立てて考える能力（論理的思考力）を身につけよう。（その1）	大学入試で、小論文が課せられるようになったのはなぜだろうか。
7	ものごとを筋道立てて考える能力（論理的思考力）を身につけよう。（その2）	論文と感想文はどこが違うのだろうか。
8	自分の頭で考えてアイデアを出せる能力（創造力）を身につけよう。（その1）	アメリカの教育と日本の教育の違い。
9	自分の頭で考えてアイデアを出せる能力（創造力）を身につけよう。（その2）	「熊本型福祉」とは何だろうか。自分で考えてみよう。
10	自分の意見をいえるようになろう（発言力）。	日本の子どもたちはなぜ自分の意見を言わないのだろうか。
11	理論と実践とはどうかかわっているのだろうか。	看護の実践とともに理論的な思考も身につけよう（理論と実践の統合）。
12	分かりやすい文章と分かりにくい文章の違いは何だろうか。	文章が自分が分かっても意味がない。読む人が分かるかどうかである。
13	論文のテーマの選び方。	良い論文と悪い論文とはどこが違うのだろうか。
14	実際に論文を読んでみよう。	この論文で何が分かっただろうか。何が分からなかっただろうか。
15	実際に文章を書いてみよう。	与えられた課題について、自分で文章を書いてみよう。

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	その日の講義資料を見ながら、自分で理解できたかどうかをチェックすること。
成績評価	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（受講態度 20% ）
教科書	福澤一吉著『論理的に書く・読むスキル』（医学書院）
参考書	福澤一吉著『論理的に書く・読むスキル』（ISBN978-4-260-03640-5）2420円。
授業の留意点・備考	具体的な事例をあげながらわかりやすい講義を心がけたい。分からないところはどんどん質問すること。 教科書を暗記するようなこれまでの勉強方法ではなく、自分の頭で考えて、自分の意見をいえるような能力を身につけてもらいたい。

科目名		文化人類学					担当教員		田畑 博敏		
学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		長年に亘り、大学で哲学・思想系の講義・研究を行ってきた経験を活かして、異文化理解の学問である文化人類学の講義ができる。									
授 業 概 要		人間のあらゆる活動が広い意味での文化として捉えられる。文化人類学では、人間と人間のつながり、人間が世界を見て考える人間の位置等を、文化の体系と見なして、世界の文化体系を比較対比させる。									
到 達 目 標		広い視野から世界の人々の生活様式（＝文化）を理解し、身の回りの文化の意義を捉え直すことができることを目指す。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	人間と文化				(1) 文化人類学における「文化」について (2) 文化人類学の特徴：フィールドワークとエスノグラフィー						
2	人と人とのつながり				(1) 個人と社会集団の関係 (2) 家族と親族						
3	人のライフサイクル				(1) 通過儀礼について (2) 誕生・成熟etcの儀礼						
4	科学・技術・環境				(1) 人間はどのように自然を認識してきたか？ (2) 人間は自分たちをどのように認識しているか？						
5	宗教と世界観				(1) 文化人類学からみた「宗教」 (2) 宗教儀礼について						
6	身体・健康・治療				(1) 健康と病についての、文化人類学による意味づけ (2) 治療体系の多様性						
7	人間と死				(1) 人は死をどのように考えてきたか (2) 死体処理と死の儀礼について						
8	試験				まとめと解明						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を予め読んでおくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 10 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 第3版 （医学書院）									
参 考 書		適宜、示す									
授業の留意点・備考		毎回、授業終了時に、意見や感想を書いた小ペーパーを提出してもらう。									

科目名		倫理学				担当教員		清水 俊			
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		大学や専門学校で倫理学・哲学を担当し、またフィールドワーク調査してきた経験を活かし、専門家に必要な倫理や論理的思考を教えることができる。									
授 業 概 要		基礎から倫理について学び、倫理の必要性や考え方、現代の問題への応用について学習する。									
到 達 目 標		倫理的な考察力を身に着ける。新しい課題に直面した時、自ら考えられる論理的判断力を身に着ける。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	嘘をつくこと(教科書第1節)				カントの考えなどから、「常にすべきこと」という義務について学ぶ。						
2	功利主義(2節)				功利主義的な考え方と、その問題点について学ぶ。						
3	薬の配分方法(3節)				「誰かしか助けられない」ような問題について、自ら考えて答えを出してみる。						
4	エゴイズム (4節)				エゴイズムがどこまで許されるのか、エゴイズムとは何かについて考える。						
5	幸福の計算 (5節)				功利主義の習性案について学ぶ。						
6	判断能力と価値判断 (6節)				判断能力とは何か、それをだれが判断できるのかについて考える。						
7	価値判断と事実判断(7節)				価値がどのように導き出せるかについて学ぶ。						
8	正義の原理 (8節)				正義の原理が定められるかどうかについて学ぶ。						
9	思いやりからの道徳 (9節)				思いやりだけで道徳が成立するか考える。						
10	囚人のジレンマ (10節)				正直者が損をしないためにはどのようにしたらいいか、それが可能かを考える。						
11	愚行権 (11節)				愚かな行為をする権利はどこまであるか、愚かな行為に対してどこまで介入していいのかについて考える。						
12	貧しい人への義務 (12節)				貧しい人、困っている人に対して助けるべきか、誰が助けるべきかについて考える。						
13	未来の人への義務(13節)				未来の人々に対する義務のあり方について学ぶ。						
14	正義の変化 (14節)				時代や文化による正義の違いについて考える。						
15	科学の限界 (15節)				科学の発展に限界を設けるべきかどうかについて考える。						
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		現代倫理学入門(講談社学術文庫)									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名		教育学					担当教員		山城 千秋			
学科	看護学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			教育学と福祉と地域づくりをつなぐ研究を通して、看護・医療がこれからの少子・高齢社会においてどのように地域貢献できるのか、教育学の立場から講義を行う。									
授 業 概 要			本講義では、教育とはそもそも何かという問題を、学校教育だけでなく家庭や社会教育をふまえて考察する。具体的には、教育とは何かという「人間と教育」に関する思想、発達と教育、そして教育と社会の関係について基礎的理解を深め、教育学の総論的な視点を概観する。									
到 達 目 標			教育とは何かという原理的な問いに答えることができ、子ども・家庭・学校・地域それぞれの相互関係を理解することをめざす。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	教育の基本概念 (1)				人間と教育に関する思想							
2	教育の基本概念 (2)				教育はどこでなされるか							
3	教育の基本概念 (3)				人間は社会のなかで人間になる							
4	教育の基本概念 (4)				誰が子どもに何を教えるのか							
5	教育の基本概念 (5)				子ども・学校・地域							
6	教育学の歴史 (1)				日本の近現代史と教育							
7	教育学の歴史 (2)				戦争と平和学習							
8	教育学の歴史 (3)				戦後日本の教育とその思想							
9	教育と家庭 (1)				すべての乳幼児の発達を保障する保育							
10	教育と家庭 (2)				子どもの成長と家族の役割							
11	教育と家庭 (3)				子どもの生活と食育							
12	教育と社会 (1)				社会教育と生涯学習							
13	教育と社会 (2)				教育と福祉の統合をめざす地域づくり							
14	教育と社会 (3)				義務教育未修了者の学習権保障							
15	定期試験				本講義のふり返りとまとめ							
準備学習 (予習復習) の具体的な内容			日頃から新聞等の購読を通して、社会問題、教育問題への関心を高めること。									
成 績 評 価			☒ 定期試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☒ その他 (自己評価10%)									
教 科 書			教科書は使用しない。授業中に資料のプリントを配布し、それを適宜参照しながら授業を進める。									
参 考 書			アリエス『〈子供〉の誕生』（みすず書房）、ルソー『エミール』（岩波書店）、イリイチ『脱学校の社会』（東京創元社）、フレイレ『非抑圧者の教育学』（垂紀書房）									
授業の留意点・備考			教育学は、自らの成長段階において、どのような人々がどのような働きかけをし、どう作用したか、既に経験的に無意識で知っていることを、言語化し明確化する。家族・社会との関係を問い、個別的な経験を普遍化する作業と心得てほしい。									

科目名		心理学					担当教員		大吉 行秀			
学科	看護学科		年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修		必修
担当教員の実務経験			一般心理学（特に臨床心理学）を専門職として、長年福祉行政に係わった経験を活かし、看護職における患者やその家族の心理・支援について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要			心理学の基礎的知識・技術を習得することにより、看護の対象である人（患者）やその家族の心理や行動を多面的に理解するとともに、特に対象者における心理学的見方・考え方及び支援方法を学習する。									
到 達 目 標			・ 人の一般的知識・感情・意思などの作用・それらに基づく行動の発生・変容等を理解できる。 ・ 看護の対象である人間（患者）やその家族の心情や行動を共感できる。 ・ 傾聴等の技術を習得し、個々人にあった適切な支援を行うことができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション（心理学とは）				心理学とはどのような学問が。その歴史の過程は。							
2	看護職における心理学				主に病期における患者の心理を理解し、適切な支援方法を考える。							
3	人の感覚・知覚及び認知のしくみ				外界の刺激の取り入れ・解釈・行動に変化するまでを考える。							
4	記憶のメカニズムについて				記憶の3つの側面（記銘・保持・想起）の役割について。							
5	記憶の変容・忘却について				記憶された内容も時間とともに変容・忘却されてゆく。							
6	思考・言語・問題解決の過程				思考の定義・言語の役割・問題解決の手順・方法を学ぶ。							
7	学習とは				心理学で考える学習するということはどういうことなのか。							
8	人の感情（情動）の種類・働き				感情（情動）はどのようにおこってくるのか。その種類は。							
9	動機づけの意味				どのような動機づけがあるのか。持続するには何が必要か。							
10	性格とパーソナリティ				性格はどのように形成されるのか。性格と人格の違い。							
11	性格の測定方法（演習）				一部、心理検査を使用しての演習。							
12	集団（対人関係）				人はどのように人を知覚し、関係づくりをしていくのか。							
13	人の発達（誕生から死まで）				誕生から死に到るまでのそれぞれの発達課題を考える。							
14	心理臨床（ストレス等）				日常のストレスの発生。それに伴うコーピングの方法を考える。							
15	心理臨床（傾聴）				傾聴の具体的方法方法を習得する。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			教科書から抜粋された資料等、特に講義や演習を行った部分を中心に見直しておくこと。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書			系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版 （医学書院）									
参 考 書												
授業の留意点・備考			心理学を学ぶことはほとんどの学生が初めてである。専門用語等わかりやすく具体的に説明する。具体的事例を活用する。									

科目名	カウンセリング論	担当教員	河田 将一
-----	----------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		この授業は、療育センター心理職、発達健診・相談の心理職、スクールカウンセラー、特別支援教育専門家チーム委員としての豊富な実務経験を有する教員によって、カウンセリングにおける他者と関わることの本質、問題の捉え方、治ることの意味、コミュニケーションの在り方について問い返し、その上でカウンセリングの基本姿勢と主な技法について講述する。									
授業概要		カウンセリングの基本姿勢及び基本的な技法を学び、心理療法との関連についても触れながら、看護場面で活用できるようにする。また、現場で出会うクライアント・家族に見られる状態像等や支援のあり方についても学び、臨床場面での効果や限界についても考える機会とする。									
到達目標		・カウンセリングの基本姿勢を身につけ、活用することができる。 ・カウンセリングの基本的な技法を身につけ、活用することができる。 ・クライアントだけでなく、彼らを取り巻く人々にもアプローチをすることができる。									

授業計画

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	対人関係の心理からカウンセリングの意義を考える
2	こころの問題とは	誰にかかわるのか、背景に迫る、「治る」と「もとどおり」
3	コミュニケーションを考える（１）	言語的・非言語的コミュニケーション
4	コミュニケーションを考える（２）	対人距離、メラビアンの法則、防衛機制
5	カウンセリングの基本姿勢	ラポール、共感、傾聴など、相談等との違い
6	カウンセリングの基本技法	繰り返し、反射、感情の明確化など
7	演習を通した理解（１）	ラポール形成の演習（数種類）
8	演習を通した理解（２）	非言語的手段の演習、聴いてもらえない演習（数種類）
9	演習を通した理解（３）	対人関係のあり方演習、ダブルバインド演習（数種類）
10	演習を通した理解（４）	非言語的態度の演習、共感と感情の反射の演習（数種類）
11	カウンセリングと家族療法	家族へのアプローチを考える
12	演習を通した理解（５）	リフレーミング、会話としての応答の留意点
13	カウンセリングと行動療法（１）	行動形成と問題行動への対応を考える
14	カウンセリングと行動療法（２）	強化刺激、消去、飽和、カームダウンなど
15	カウンセリングと自己/他者理解	自己開示とフィードバックなど

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	
成績評価	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教科書	なし
参考書	心と関わる臨床心理（ナカニシヤ出版）
授業の留意点・備考	原則として配布資料は用意せず、受講生各自が書き写しながら1冊のノートを仕上げるようにする。

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		熊本大学大学院にて社会学を研究し、複雑・多様化した社会的諸課題を論理的・思考的に分析及び研究した実績をもとに、社会学と医療について講義を行うことができる。									
授業概要		「社会学」とはどのような学問であるかと考えるか。社会学は、普段あまり意識することのない「個人と社会の関係」がどのように成り立っているのかを理論的に考察していく学問のことである。この授業では、社会学の基礎的な考え方や理論を学び、現代社会の変化とグローバル化に焦点をあて、社会学の基礎から看護と介護に関する分野について考えを深めていく。授業をとおして、「社会学のものの見方」を獲得し、変わる世界と私たちを囲む社会における多様な問題を取り上げる。									
到達目標		社会学の基礎的な考え方や理論を理解することができる。 社会的な想像力を適用することができる。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	ガイダンスと社会学への導入			授業の流れを理解し、社会学とはどういう学問かを知る。							
2	社会学における理論的思考			社会学における基礎的な理論を考察する。							
3	ジェンダー			「性」の捉え方、性の多様性など、現代社会の問題をジェンダーの視点から考える。							
4	現代の家族（1）			家族の定義、家族の縮小化等、変動する家族について考察する。							
5	現代の家族（2）			未婚化及び晩婚化、少子高齢化について学ぶ。							
6	逸脱の社会学（1）			社会的な視点から逸脱とは何か、ラベリング理論を適用して考える。							
7	逸脱の社会学（2）			映画「百万円と苦虫女」を鑑賞し社会的思考を身につける。レポートを作成する。							
8	グローバリゼーション（1）			グローバル化の概念、文化的・経済的な側面について考察する。							
9	グローバリゼーション（2）			EPA協定に基づく看護・介護の受け入れ方法や、日本の多文化共生について学ぶ。							
10	医療の社会学（1）			医療化と医療の社会的歴史について知り、考えを深める。							
11	医療の社会学（2）			医療化の要因と医療化から生じる社会現象を考察する。							
12	キュアからケア			看護学の歴史、看護職の専門性の高まり、看護の場の広がりなど、変動する看護学を学ぶ。							
13	死の社会学			パーソンズの理論を参照しながら病院の役割や、死の社会学の領域に伴う課題について考察する。							
14	総括と補足			既習事項の復習及び定着を図る。							
15	定期試験			定期試験を受験する。（まとめと解説）							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		事前学習：視野を広げるための情報収集をする。 事後学習：授業中に配布するレジュメを元に復習する。									
成績評価		☒ 定期試験（90％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（10％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		特になし									
参考書		アンソニー・ギデンズ『社会学 第五版』而立書房 濱野健・須藤廣 編集『看護と介護のための社会学』明石書店 資料を配布									
授業の留意点・備考		授業に主体的に参加すること。 毎時間の学習内容について感想が書けること。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		教育現場で培った経験を活かし、将来、医療現場で働く学生に学んでいて欲しい基礎的な知識を講義できる。									
授業概要		医療及び看護の専門分野の英語文献資料を読解できる英語力を養う。									
到達目標		To review and improve English communication skills, Build practical English vocabulary; Expand English communication ability. (英語のコミュニケーション能力を伸ばすため、英語の語彙力を確立する。英語のコミュニケーション能力を発展させる。)									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	Orientation			orientation (オリエンテーション)							
2	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Food							
3	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Japan							
4	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Shopping							
5	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Music							
6	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Transportation							
7	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Work							
8	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Family							
9	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Travel							
10	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Europe							
11	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Famous People							
12	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Sports							
13	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Home							
14	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Health, Entertainment							
15	Examination										
準備学習(予習復習)の具体的な内容		all instruction done in English (講義は英語で行われます) Students are expected to communicate in English (授業中、学生は英語でコミュニケーションをとることが望ましい) monthly vocabulary quizzes (毎月英語の語彙クイズを実施します)									
成績評価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教科書		"Let's Talk About It" by PERSON Longman Craig Drayton&Mark Gibbon									
参考書		適宜、示す									
授業の留意点・備考		a good "Learner's" dictionary will be needed by every student in every class (毎回、学習者用の辞書を持参すること。電子辞書でも構いません)									

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		教育現場で培った経験を活かし、将来、医療現場で働く学生に学んでいて欲しい基礎的な知識を講義できる。									
授 業 概 要		グローバル化や高齢化が進む中で、医療現場で外国語が必要となる可能性が高まっています。この授業では、医療の場面で使える単語や表現を習得し、英文を読むことで、看護の世界における視野を広げることを目指します。どのような場面で、どのような言葉を選ぶのがより良いのか。または、どのように考えれば最善の答えを導きだせるのか。様々な活動（事前準備、課題、小テスト、ペアやグループワーク等）を通して、学習内容の定着を図ります。									
到 達 目 標		・医療現場で必要となる基礎的な事柄を英語で理解できる ・医療現場で必要となる基礎的な表現を暗唱できる ・医療の現場で起こり得る看護師と患者のやり取りを英語で理解できる ・英文で使われる基礎的な単語を覚えらるる ・英文で書かれた内容のポイントを正確に把握できる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	Power of Language			・ガイダンス ・日野原重明医師からのメッセージを読み、自分の考えを述べる							
2	Don't worry.			・単語の解答と発音練習 ・「励まし」の表現を学ぶ ・発話練習							
3	How may I help you?			・単語の解答と発音練習 ・「声かけ」の表現を学ぶ ・発話練習 ・ある看護師の体験談を読み、問題を解く ・英作文提出							
4	How are you feeling?			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「気分を聞く」表現を学ぶ ・発話練習 ・パンフレットのの一部を読み、問題を解く ・次回の授業のプリントを配布							
5	Could you fill in this medical questionnaire?			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「問診票」についての表現を学ぶ ・発話練習 ・ある看護師の文章を読み、問題を解く ・次回の授業のプリントを配布							
6	Take the elevator, please.			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「行き先を案内する」表現を学ぶ ・発話練習 ・仮定された状況を想像して、自分の考えを書く							
7	What are your symptoms?			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「症状を尋ねる」表現を学ぶ ・発話練習 ・看護師の知っていることを読み、問題を解く ・次回の授業のプリントを配布							
8	Where does it hurt?			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「痛みの場所を聞く」表現を学ぶ ・発話練習 ・ある映画作品紹介を読み、問題を解く							
9	How long have you had these symptoms?			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「症状の持続時間を聞く」表現を学ぶ ・発話練習 ・動物療法について読み、問題を解く							
10	I'm going to take a blood sample.			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「検査の手順を説明する」表現を学ぶ ・発話練習 ・夜間勤務を乗り切る方法を読み、自分の考えを述べる							
11	Let me take your vital signs.			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「入院患者との会話」表現を学ぶ ・発話練習							
12	Your surgery will be tomorrow.			・単語の解答と発音練習 ・「手術前後の説明」表現を学ぶ ・発話練習 ・職場でのトラブルへの対処法について読み、問題を解く							
13	There are three kinds of medicine.			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「薬の説明」表現を学ぶ ・発話練習 ・リーディング全訳 ・次回の授業のプリントを配布							
14	Are you worried about anything?/ It's time to be discharged.			・前回の単語の小テスト ・単語の解答と発音練習 ・「文化の違いによる心配事を聞く・退院後の説明」表現を学ぶ ・発話練習							
15	試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		・予習としては指示されたところをすること、小テストがある時はテスト勉強もする ・復習では授業中に理解できなかったところを何度も読むこと、音読練習をする									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 15 %） ☒ 課題（ 10 %） ☒ 発表（ 15 %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		『Lifesaver, New Edition -Basic English in Medical Situations 話せる！役立つ！看護英語＜新版＞』井上貞紀、佐藤利哉著（セーンゲージ ラーニング（株）） 2,420円									
参 考 書		手元があれば、高校時代の英文法書（電子辞書に内蔵しているものもある）									
授業の留意点・備考		紙辞書、もしくは電子辞書が必要だと思います。スマホは原則授業中に使用しないでください。理由は、辞書代わりのつもりがついつい他の事をしてしまう学生もいるからです。									

科目名	英語講読	担当教員	ジェフェリーアランケアンズ
-----	------	------	---------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		教育現場で培った経験を活かし、将来、医療現場で働く学生に学んでいて欲しい基礎的な知識を講義できる。									
授 業 概 要		医療及び看護の専門分野の英語文献資料を読解できる英語力を養う。									
到 達 目 標		医学関連分野の語彙力の向上を図る。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	English medical vocabulary	orientation
2	English medical vocabulary	Reading assignment #1/blog report writing
3	English medical vocabulary	Reading assignment #2/blog report writing
4	English medical vocabulary	Reading assignment #3/blog report writing
5	English medical vocabulary	Reading assignment #4/blog report writing
6	English medical vocabulary	Reading assignment #5/blog report writing
7	English medical vocabulary	Reading assignment #6/blog report writing
8	Examination	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	Individual work
成 績 評 価	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書	なし
参 考 書	適宜、示す
授業の留意点・備考	・all classes are conducted in English ・a good "Learner's" dictionary is a must for all students ・a USB flash drive（・全ての講義は英語で行います。・辞書が全ての学生に必要です。・USBが一人につき一つ必要です。初回講義時までに各自で用意しておくこと。）

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		情報教育における長年の経験から、情報システムの利活用について、また、情報というものの捉え方や看護分野への応用について講義・演習を行える。									
授業概要		情報の活用能力の向上を目指して、情報の理論とコンピューターの実際を学ぶ。情報科学の初歩的理論を学び医療における情報（特にプライバシーに関する）取り扱いにおける責任・理論を理解し、実践を通して「情報処理」能力を取得する。									
到達目標		コンピューターの基本操作ができるようになる。特に、実践的な情報処理と統計を簡単な例や調査・研究をしながら、自分で出来るようにする。また、今後、実際の業務や生活全般での個人情報やプライバシー保護などの基本規範も身に着ける。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	授業ガイダンス・情報とは			授業を進めるうえでの注意点等の説明を行う。また、看護の分野で、なぜ情報を取り扱う必要があるのかについて解説する。							
2	文書作成の基礎			学生生活を送るうえで、また業務上必要なスキルとして文書作成ソフトウェア（ワードプロセッサ）を利用した文書作成の基礎について学習する。							
3	文書作成の応用			文書作成ソフトウェア利用の応用的な能力を身に着けるため、文書の事例を用いながら解説ならびに演習を行う。							
4	文書作成の発展			課題を通じて文書作成ソフトウェアの利活用能力を向上させる。							
5	情報化社会／保険医療と情報			私たちの身の回りにある情報という概念について理解するとともに、保健医療の分野で情報の利活用がどのように進んでいるかを学習する。							
6	表計算の基礎			収集したデータを分析・加工するために一般的に利用されている表計算ソフトウェアの基礎的な学習を行う。							
7	表計算の応用			表計算ソフトウェアの応用的な能力を身に着けるため、データの事例を用いながら解説ならびに演習を行う。							
8	表計算の発展			課題を通じて表計算ソフトウェアの利活用能力を向上させる。							
9	看護と情報			看護の分野における情報の捉え方や利活用の方法について、教科書を用いながら解説を行う。							
10	プレゼンテーションの基礎			看護研究の発表ならびに様々な業務改善等を他者に伝える際に利用される、プレゼンテーションソフトウェアの基礎的な学習を行う。							
11	プレゼンテーションの応用			プレゼンテーションソフトウェアの応用的な能力を身に着けるため、プレゼンテーション事例を用いながら解説ならびに演習を行う。							
12	プレゼンテーションの発展			課題を通じてプレゼンテーションソフトウェアの利活用能力を向上させる							
13	医療における情報システム			医療の現場における情報システムの利活用について学ぶ。特に、電子カルテを中心とした情報システムの全体像を掴めることを目的とする。							
14	情報倫理と医療倫理／患者の権利と情報			情報の取扱いにおける倫理と医療の現場における倫理、また、近年の医療分野における患者の権利について解説を行う。							
15	個人情報の保護／定期試験			個人情報の保護について、特に気を付けるべきポイントについて解説を行う。また、今学期の学習内容の理解度を測るため定期試験を実施する。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		今後の自らの学生生活と生涯学習の基盤となるので、積極的に反復練習や教科書の内容を理解するよう努めること。									
成績評価		☒ 定期試験（40％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☒ 課題（60％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		系統看護学講座 別巻 看護情報学 第2版 （医学書院）									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		看護分野を取り巻く情報の重要性、また、情報システムの利活用について積極的に学習を行って頂きたい。また、演習を通じて、情報機器やソフトウェアの利活用についてのスキル向上を目指し、積極的に取り組んで頂きたい。									

科目名	保健体育					担当教員	松尾 洋				
学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		保健体育の授業のみならず、介護予防事業・介護保険計画や公衆衛生学を通じて地域行政にかかわった経験を活かし、地域における看護師の役割などについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		運動による健康増進の効果を倫理的に学び、その必要性を理解する。さらに体力の維持・向上を目指し、協調性・責任感などを養う。									
到 達 目 標		運動と健康増進の効果を倫理的に学ぶ。スポーツやレクリエーションを通して、自己の健康と臨床能力に活かす基本を身につけることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	オリエンテーション 健康づくり概論①					日本の健康づくり施策の変遷を学び、健康づくり施策の現状を学ぶ。					
2	身体機能測定演習					Inbodyを使用し自分の身体機能を学ぶ。					
3	ウォーキング演習					ウォーキングの理論を学び、学外においてウォーキングを実践する。					
4	ストレッチング演習					体を動かす基礎となるストレッチの実践方法を学び、学外において実践する。					
5	筋力トレーニング演習					筋力トレーニングの基礎を学び、学外において実践する。					
6	軽運動演習①					卓球の基礎知識を理解し、基本的な技術を学ぶ。					
7	ヨガ演習①					パワーヨガのポーズや呼吸法などを学び、上達する。ヨガを通じて自分の健康を見直し、改善点を考える。					
8	ヨガ演習②					ヨガを通じたストレスマネジメントについて学ぶ。					
9	ヨガ演習③					マインドフルネスについて学ぶ。					
10	スロージョギング演習①					スロージョギングの理論を学び、学外においてウォーキングを実践する。					
11	軽運動演習②					卓球のルールとマナーを習得して、互いに尊重しあって楽しくプレーやゲームを実践する。					
12	健康づくり演習②					日本の介護予防対策について学ぶ。					
13	スロージョギング演習②					スロージョギングの理論を学び、学外においてウォーキングを実践する。					
14	健康づくり演習③					日本の認知症対策について学ぶ。					
15	まとめ					学びの振り返りを行う。					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		自宅におけるストレッチ、筋トレなどの自身の基礎体力づくりを行うとともに、各演習内容について指定の学会等ホームページで復習を行う。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		特になし、適宜資料を配布									
参 考 書		特になし、適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		演習授業時の服装は動きやすい格好とする。学外で実施の場合は運動靴を準備すること。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		【水野直樹】キャリアコンサルタント、人材育成講師、ラジオパーソナリティ【怒留湯美季】助産師、妊娠SOS電話相談員の経験を活かし、学生の自己理解のグループワークや臨床現場でのコミュニケーションについて講義・演習を行うことができる。									
授業概要		コミュニケーションに必要な要素を分野別に探究する。									
到達目標		1. コミュニケーションの基礎知識を理解できる。 2. ホスピタリティマインドを身につけたコミュニケーションを図ることができる。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	コミュニケーションとは			言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する							
2	自己理解と他者理解			自分の内面と向き合うための演習。							
3	傾聴とは①			傾聴の意味を知る。							
4	傾聴とは②			傾聴を体験する演習。							
5	ホスピタリティマインドとは			サービスと対比させてホスピタリティマインドについて気づく。							
6	接遇におけるコミュニケーション			言語的・非言語的コミュニケーションを組み合わせた演習							
7	気持ちを引き出すコミュニケーション			コーチングの基礎を学ぶ。							
8	プロセスレコードと会話分析			実践を客観的に分析することにより、その必要性を学ぶ。							
9	行動変容のための言葉かけ			ケアの対象との相互作用に着目し、専門職としての実践力をつける。							
10	看護場面で求められるコミュニケーション			臨床現場での実践と自分の課題を知る。							
11	チームにおけるコミュニケーション			同じ目的を持つチームのリーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。							
12	ハウ・レン・ソウとコミュニケーション			報告、連絡、相談の重要性と使い分けについて学ぶ。							
13	クレーム対応とAngerマネジメント			気持ちと言葉の相関関係を学ぶ。							
14	メンタルヘルスとコミュニケーション			自己理解をもとに、のセルフケアについて考える。							
15	試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☒ 定期試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 30 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教科書		会話例とワークで学ぶ理学療法コミュニケーション論									
参考書		毎回配布資料あり									
授業の留意点・備考											

科目名	解剖生理学Ⅰ							担当教員	中西 宏之		
学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに理学療法科、作業療法科での生理学の講義に係わった経験を活かし、看護科ための解剖生理学の講義を行うことができる。									
授業概要		解剖と生理学は人体の構造と機能を学ぶ学問であり、お互い密接に関連しており医学の最重要の基礎となっている。細胞・組織・器官の正常の構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われる。このように医療の基盤となっている解剖生理学を理解していく。									
到達目標		人体を構成する細胞・組織・機関の構造と機能を知り、生命維持について概要がわかる。呼吸と血液の機能を学び、呼吸の意義を説明できる。心臓や血管の構造と機能を学び、生命維持における循環の意義を説明できる。消化管・肝臓・膵臓の構造と機能を学び、生命維持における消化・吸収の意義を説明できる。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	解剖学を学ぶための基礎知識①			人体の構造、部位と器官について学ぶ							
2	解剖学を学ぶための基礎知識②			細胞の構造、細胞を構成する物質、細胞膜の構造と機能を学ぶ 細胞増殖と染色体、上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織を学ぶ							
3	解剖学を学ぶための基礎知識③			動物機能と植物機能、体液とホメオスタシスを学ぶ							
4	消化と吸収①			口、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能を学ぶ							
5	消化と吸収②			栄養素の消化と吸収を学ぶ							
6	消化と吸収③			膵臓・肝臓・胆嚢、腹膜の構造と機能を学ぶ							
7	呼吸と血液のはたらき①			呼吸器の構成、上気道と下気道を学ぶ 肺と胸膜・縦隔を学ぶ							
8	呼吸と血液のはたらき②			内呼吸・外呼吸、呼吸運動、呼吸気量、ガス交換とガス運搬を学ぶ							
9	呼吸と血液のはたらき③			呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理を学ぶ							
10	呼吸と血液のはたらき④			血液の組成と機能を学ぶ 血漿タンパク質、血液凝固・線溶、血液型を学ぶ							
11	循環とその調節①			心臓の構造を学ぶ							
12	循環とその調節②			心臓の興奮と伝道を学ぶ 心電図を学ぶ							
13	循環とその調節③			血管の構造を学ぶ 体循環の動脈と静脈を学ぶ 血圧・血流量の調節を学ぶ							
14	循環とその調節④			微小循環、循環器系の病態生理を学ぶ リンパとリンパ管を学ぶ							
15	試験			試験とまとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。									
成績評価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第10版（医学書院）									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。									

科目名		解剖生理学Ⅱ					担当教員		大林 光念			
学科	看護学科		年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			医師として26年以上の臨床経験を有し、大学医学部（看護学科含む）での解剖・生理学の教育経験も10年以上ある。									
授 業 概 要			医科学の基礎である解剖・生理学のうち神経系、消化器系、泌尿器系及び内分泌系の概要を学ぶ。									
到 達 目 標			神経系、消化器系、泌尿器系、内分泌系について、その解剖学的構造と生理学的機能について説明できる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				解剖・生理学の重要性を学ぶ。							
2	栄養素の生化学・代謝①				蛋白質・脂質・炭水化物の代謝について学ぶ。							
3	栄養素の生化学・代謝②				ビタミン・ミネラル・微量元素の代謝について学ぶ。							
4	栄養障害の病態生理				栄養障害に伴う生理機能の変化について学ぶ。							
5	歩行の生理学				歩行をテーマに神経系の基礎を学ぶ。							
6	大脳の解剖・生理				大脳の構造・機能について学ぶ。							
7	脳幹部・小脳の解剖・生理				脳幹部・小脳の構造・機能について学ぶ。							
8	脊髄・末梢神経の解剖・生理				脊髄・末梢神経の構造・機能について学ぶ。							
9	自律神経の解剖・生理				自律神経の構造・機能について学ぶ。							
10	腎・尿路系の解剖・生理①				泌尿器系の構造・機能について学ぶ。							
11	腎・尿路系の解剖・生理②				尿の成分や尿検査について学ぶ。							
12	内分泌系の解剖・生理				内分泌系の構造・機能について広く学ぶ。							
13	消化器系の解剖・生理①				消化管の構造・機能について学ぶ。							
14	消化器系の解剖・生理②				肝・膵・胆の構造・機能について学ぶ。							
15	試験				本シリーズの試験を行う。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			毎回講義ノートを復習すること。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			系統看護学講座 専門基礎Ⅰ 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第10版 （医学書院）									
参 考 書			講師自作の講義資料									
授業の留意点・備考			不明な点は積極的に質問すること。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医師として20年以上の臨床経験を有し、入子医学部（看護学科含む）での解剖・生理学の教育経験も10年以上ある。医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに理学療法科、作業療法科での生理学の講義に係わった経験を活かし、看護科ための解剖生理学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要		医科学の基礎である解剖・生理学のうち血管、骨、筋肉、関節、眼、耳、舌、皮膚、生殖器の概要を学ぶ。解剖と生理学は人体の構造と機能を学ぶ学問であり、お互い密接に関連しており医学の最重要の基礎となっている。細胞・組織・器官の正常の構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われる。このように医療の基盤となっている解剖生理学を理解していく									
到 達 目 標		血管、骨、筋肉、関節、眼、耳、舌、皮膚、生殖器について、その解剖学的構造と生理学的機能について説明できる。侵入してきた外敵に対する生体防御機構を説明できる。次の世代の個体を生み出して種の維持する生殖の構造と機能を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	呼吸音と胸部X線写真			呼吸音と胸部X線写真を通して、呼吸筋や胸部を学ぶ。							
2	心音と動静脈			心音を学びつつ、動脈と静脈について理解を深める。							
3	骨・筋肉・関節			骨・筋肉・関節の構造・機能について学ぶ。							
4	視覚・味覚・嗅覚			眼・耳・舌の構造・機能について学ぶ。							
5	皮膚			皮膚の構造・機能について学ぶ。							
6	生殖器			男性生殖器・女性生殖器の構造・機能について学ぶ。							
7	老化について			解剖生理学のまとめとして、老化とは何かを学ぶ。							
8	生体の防御機構①			非特異的防御機構を学ぶ							
9	生体の防御機構②			特異的防御機構－免疫を学ぶ							
10	生体の防御機構③			生体防御の関連臓器を学ぶ							
11	生殖・発生・老化①			男性生殖器を学ぶ							
12	生殖・発生・老化①			女性生殖器を学ぶ							
13	生殖・発生・老化①			受精と胎児の発生を学ぶ							
14	生殖・発生・老化①			老化について学ぶ							
15	試験			本シリーズの試験を行う。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回講義ノートを復習すること。教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎Ⅰ 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第10版（医学書院）									
参 考 書		講師自作の講義資料									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問すること。授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。									

科目名	形態機能学	担当教員	原口 真由美
-----	-------	------	--------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	高度先進医療を提供する大学病院の混合病棟・周産期病棟勤務経験、基礎看護学領域での教育経験を生かし講義をすることができる。
-----------	--

授 業 概 要	生命維持と生活行動の基礎となる人体の構造と機能を理解する。また、フィジカルアセスメント等における観察力や判断力の基礎となる知識を習得する。
---------	---

到達目標	1. 生命維持と日常生活行動の基礎となる人体の構造と機能を理解する。 2. 日常生活行動を身体はどのような仕組みで行っているのかを理解できる。 ①既習学習を基に人体の各臓器・器官の構造、機能を説明できる。 ②日常生活行動と身体機能の関連を説明できる。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	息をする・呼吸器系 : 呼吸器の解剖とガス交換の仕組み	呼吸器の解剖とガス交換の仕組み
2	循環	心臓の構造と働き・血流と血圧維持
3	循環	体液と血液の機能
4	食べる・消化器系	消化器系の構造と栄養摂取
5	排泄・腎、泌尿器 : 腎・泌尿器系の構造と排泄機能	排泄・腎、泌尿器 : 腎・泌尿器系の構造と排泄機能
6	神経系	神経系の構造と神経伝達
7	神経系	神経系の構造と神経伝達
8	感覚器 : 五感・感覚・刺激、皮膚・内臓感覚	感覚器 : 五感・感覚・刺激、皮膚・内臓感覚
9	動く・筋、骨格系 : 運動に関わる器官の構造、機能・エネルギー代謝	運動に関わる器官の構造、機能・エネルギー代謝
10	動く・筋、骨格系 : 運動に関わる器官の構造、機能・エネルギー代謝	運動に関わる器官と生活行動
11	産み育てる・生殖器 : 生殖器の機能・種族保存	産み育てる・生殖器 : 生殖器の機能・種族保存
12	ホメオスタシス① 神経系による恒常性維持	恒常性維持のしくみ
13	人の身体	学びから生まれた疑問について調べる・グループワーク
14	人の身体	学びから生まれた疑問について調べる・グループワーク
15	人の身体	発表・まとめ

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	既習学習（解剖生理、フィジカルアセスメント）のテキスト・授業資料を基に予習し、授業に臨む。
---------------------------	---

成 績 評 価	☒ 定期試験 (100 %)	☐ 実技試験 (%)	☐ 小テスト (%)	☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%)	☐ 発表 (%)	☒ その他 (授業・グループワーク参加状況)	

教科書	看護形態機能学 系統看護学講座	日本看護協会出版会 解剖生理学ワークブック	医学書院 医学書院
-----	--------------------	--------------------------	--------------

参 考 書 系統看護学講座 回部生理学 医学書院

授業の留意点・備考	看護に活かすため、生活機能を考えながら学習を進めて行く。学びの定着のため、予習・復習が求められる。
-----------	---

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	国内・海外の研究機関での生化学・衛生学関連の研究経験を活かし、生化学に関する基礎知識、代謝、遺伝子発現の調節等について講義を行うことができる。										
授 業 概 要	生体における生命現象のメカニズムの理解は、病態や診断・治療・予防の深い理解につながる。生化学の学習を通じて、生体構成物質の物質的基盤、代謝、遺伝子発現の調節、生体恒常性の調節メカニズム等を学ぶ。										
到 達 目 標	生体を構成する物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸など）の構造と機能を説明できる。代謝経路及び代謝の調節メカニズムを説明できる。遺伝子発現と調節メカニズムを説明できる。										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	生化学を学ぶための基礎知識				生化学とは；生体の化学の基礎知識；細胞の構造と機能						
2	代謝の基礎と酵素・補酵素				酵素の基礎知識；補因子；酵素の反応速度；ビタミン						
3	糖質の構造と機能				糖質とは；単糖・二糖・多糖の構造と機能						
4	糖質代謝				糖質の消化と吸収；グルコースの分解；グリコーゲン代謝；糖新生						
5	脂質の構造と機能				脂質とは；脂質の種類；リポタンパク質						
6	脂質代謝				脂質の消化と吸収；脂肪酸の分解；脂質の合成						
7	タンパク質の構造と機能				アミノ酸；タンパク質の構造						
8	タンパク質代謝				タンパク質の消化と吸収；アミノ酸の分解						
9	ポルフィリン代謝と異物代謝				ポルフィリン；生体異物代謝；活性酸素とその除去反応						
10	遺伝子と核酸				遺伝学の基礎知識；核酸の構造と機能；核酸の代謝						
11	遺伝子の複製・修復・組換え				DNAの複製・修復・組換え；遺伝子多型						
12	転写・翻訳と翻訳後修飾				転写とは；転写の開始・終結；転写メカニズム；翻訳メカニズム						
13	シグナル伝達				シグナル伝達のメカニズム；内分泌の生化学的基盤						
14	がん				がん遺伝子；がん抑制遺伝子						
15	試験				まとめと解説						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回の講義直後に教科書の履修箇所及び配布資料を3回読み、理解に努めてください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 95 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☒ その他（質問・コメント用紙 5% ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学 第14版 （医学書院）									
参 考 書		「図解・化学「超」入門 物質の基本がゼロからわかる」「カラー図解でわかる高校化学超入門」（サイエンス・アイ新書）									
授業の留意点・備考		高校「化学」の教科書を持っていない方は、上記参考書（どちらか一冊で可）の購入を推奨します。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		熊本県行政の栄養指導員として、県民の栄養改善・食生活改善指導の経験を活かし、また、尚絨大学での管理栄養士養成の実績を応用して、栄養学の基礎理論を講義することができる。病院での栄養管理に係わった経験を生かし、栄養食事療法に対する看護師の役割や制度について講義演習を行うことができる。									
授 業 概 要		人が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために必要な栄養素やその代謝について学び、食習慣、生活習慣やライフスタイルと健康課題について理解する。専門基礎分野を基盤とし栄養食事療法の概要や制度、サービス等について学習する。患者、地域住民への具体的なアプローチについて学習する。									
到 達 目 標		健全な生命活動を営むための栄養素の種類とその働きを説明できる。医療における食事について説明できる。NSTにおける看護師の役割を実践できる。正しい食事を理解し、自らの正しい食生活を実践できる。患者、住民への治療食としての栄養食事療法を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	栄養学を学ぶということ			栄養学はどのように生まれ、研究されてきたか学ぶ							
2	看護と栄養			医療における栄養と看護師の役割を学ぶ							
3	栄養素の種類とはたらき①			糖質、脂質、たんぱく質の種類と体内での生理機能を学ぶ							
4	栄養素の種類とはたらき②			ビタミン、ミネラル、食物繊維の種類と体内での生理機能を学ぶ							
5	食物の消化と栄養素の吸収			食物の消化の仕組みと、栄養素の吸収機構を学ぶ							
6	栄養素の代謝			栄養素が生体内でどのように分解・合成され利用されるか学ぶ							
7	エネルギー代謝			生体内で行われるエネルギーの産生とその変化を学ぶ							
8	病院食、栄養状態の評価判定			治療食としての栄養食事療法の係わりと役割を学習する。							
9	循環器・消化器疾患、腎臓病			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（循環器・消化器疾患等）							
10	血液疾患、小児、妊娠高血圧、肝臓			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（血液疾患等）							
11	代謝疾患、糖尿病、肥満			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（代謝疾患等）							
12	術前・術後、食物アレルギー			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（術前・術後、食物アレルギー）							
13	高齢者の栄養管理、在宅療法			骨粗鬆症、低栄養、食欲不振等について学習する。							
14	医療保険、診療報酬制度			医療保険、診療報酬制度等について学習する。							
15	試験			試験まとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		自分自身や身近な人（家族や友人等）の食生活や生活習慣に関心を持ち、健康を意識する。講義資料を復習し、資料内容の課題について予習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(3) 栄養学 第13版 （医学書院） 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第4版 （医学書院）									
参 考 書		糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 （文光堂）									
授業の留意点・備考		授業中は周りの人に迷惑をかけないこと。 食事全般、栄養食事療法について、不明な点を積極的に質問できるように促していく。									

科目名		病理学総論					担当教員		柳沼 裕二		
学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		医学部での病理学の講義の経験を活かし、病理学の基礎、各疾患についての講義を行う。									
授 業 概 要		疾病の理解の基本となる病理学総論について概説する。									
到 達 目 標		病理学総論について、十分理解し、説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	病理学と病因			病理学とは何か。病期疾病の原因の分類を理解し、説明できる。							
2	先天異常			遺伝子異常、染色体異常							
3	感染症			炎症局所の基本的変化、感染症による宿主反応、性感染症を理解し、説明できる。							
4	代謝障害			退行性病変や糖尿病などの糖代謝異常、脂質代謝異常や蛋白代謝異常を理解し、説明できる。							
5	循環障害			虚血と梗塞、充血とうっ血、出血と出血傾向、心不全、肝硬変症の側副循環、DIC、ショックを理解し、説明できる。							
6	腫瘍			腫瘍とは、腫瘍の種類と命名法、腫瘍の形態と発育様式、転移と浸潤、腫瘍の原因、発生機序、疫学を理解し、説明できる。							
7	免疫			I型～V型のアレルギー性疾患、自己免疫疾患を理解し、説明できる。							
8	まとめ			全体のまとめ							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕 病理学 第5版 （医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考											

科目名		病理学Ⅰ					担当教員		中西 宏之				
学科	看護学科		年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病の成り立ちと回復の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに一般外科・消化器外科の臨床に係った経験を活かし、看護科ための病理学の講義を行うことができる。										
授 業 概 要			病理学とは病気の成り立ちを学ぶ学問である。細胞・組織・器官の正常の構造と機能がもとになって、病理学が理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われる。このように医療・看護の基盤となっている病理学を理解していく。										
到 達 目 標			呼吸器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、知慮、予後を説明できる。循環器の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、知慮、予後を説明できる。										
授 業 計 画													
回	テーマ				授 業 内 容								
1	呼吸器①				呼吸器の構造・生理を学ぶ								
2	呼吸器②				呼吸器疾患の症状と病態生理を学ぶ 呼吸器疾患の検査と治療・処置を学ぶ								
3	呼吸器③				呼吸器感染症について学ぶ 間質性肺疾患について学ぶ 気道疾患について学ぶ								
4	呼吸器④				肺塞栓症、呼吸不全、呼吸調節に関する疾患について学ぶ 肺腫瘍について学ぶ 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患について学ぶ								
5	循環器①				循環器の構造・生理を学ぶ								
6	循環器②				循環器疾患の症状と病態生理を学ぶ 循環器疾患の検査と治療・処置を学ぶ								
7	循環器③				虚血性心疾患、心不全と血圧異常、不整脈、弁膜症、心膜炎。心筋疾患、先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患について学ぶ								
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			教科書、講義プリントをよく読んで予習復習をする。とくに病気の成り立ちを学習するためには、正常の構造と機能をよく理解しておく必要があり、解剖生理で学んだ知識を整理しておくこと。										
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）										
教 科 書			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 第15版（医学書院） 看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 第15版（医学書院）										系統
参 考 書			なし										
授業の留意点・備考			パワーポイントとプリントを用いて授業を行う。授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書やプリント、さらには教官の積極的に活用すること。										

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに一般外科・消化器外科の臨床に係わった経験を活かし、看護科ための病理学の講義を行うことができる。日本糖尿病療養指導士として、日々患者の指導や透析予防外来で糖尿病患者の生活指導やフットケアを実施している。循環器・代謝内科病棟での勤務経験を活かし、術前コントロールや術後の患者のコントロールについても指導を行なっている。それらの経験を活かし、内分泌・代謝疾患の病態生理、及び糖尿病患者への指導方法について講義を行なうことができる。									
授 業 概 要		病理学とは病気の成り立ちを学ぶ学問である。細胞・組織・器官の正常の構造と機能がもとになって、病理学が理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われる。このように医療・看護の基盤となっている病理学を理解していく。代謝内科疾患・内分泌疾患の病態生理や症状を学び、治療や患者が疾患をコントロールするために必要な知識について学習する。									
到 達 目 標		消化器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、知慮、予後を説明できる。代謝調節、ホルモン分泌調節、機能亢進・低下について理解できる。また患者が疾患と共存しながら社会生活を行なうために必要な知識を習得し、患者が自身でコントロールできるような生活指導の方法や実際について理解し実施できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			代謝疾患・内分泌疾患を持つ患者について学ぶ。 尿病の概要について学ぶ。							
2	糖尿病について①			1型糖尿病と2型糖尿病の違いについて学ぶ。 尿病を疑う際の検査、診断について学ぶ。							
3	糖尿病について②			糖尿病の治療について学ぶ。 病態のコントロールについて。患者指導の方法等について。							
4	痛風、脂質代謝異常、メタボについて			疾患の概要、症状、治療・検査について学ぶ。 患者の病状コントロールについて学ぶ。							
5	内分泌疾患①			・ホルモン調節、各ホルモンについて学ぶ。 ・下垂体疾患、甲状腺疾患について症状、検査、治療を学ぶ。							
6	内分泌疾患②			・甲状腺疾患の続き、副腎疾患、膵内分泌疾患の症状、検査、治療について学ぶ。							
7	補足説明、復習			質疑応答を行ないながら全体の復習。テストについての説明。							
8	消化器①			消化器の構造・生理を学ぶ							
9	消化器②			消化器疾患の症状と病態生理を学ぶ 消化器疾患の検査と治療・処置を学ぶ							
10	消化器③			食道・胃の疾患について学ぶ 胃癌について学ぶ							
11	消化器④			腸および腹膜の疾患について学ぶ							
12	消化器⑤			結腸癌・直腸癌について学ぶ							
13	消化器⑥			肝臓・胆嚢の疾患について学ぶ							
14	消化器⑦			膵臓の疾患について学ぶ							
15	試験			試験とまとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書、講義プリントをよく読んで予習復習をする。とくに病気の成り立ちを学習するためには、正常の構造と機能をよく理解しておく必要があり、解剖生理で学んだ知識を整理しておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 第15版（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		パワーポイントとプリントを用いて授業を行う。授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書やプリント、さらには教官の積極的に活用すること。									

科目名		病理学Ⅲ				担当教員		柳沼 裕二／非常勤講師			
学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		産婦人科の医師としての経験を活かし、女性生殖器疾患の病態・検査・治療・予後について講義を行う。									
授業概要		疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開にいかすことができる。									
到達目標		女性生殖器の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾患の病態、検査、治療、予後を理解し、説明できる。 さらに習得した生殖器系の知識や技術を臨地実習や臨床での看護の展開に活かす。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	女性生殖器疾患の症状と病態生理				女性生殖器の解剖を理解し、不正出血、帯下、月経痛等を理解する。						
2	外陰の疾患、膣炎				外陰炎、カンジダ膣炎、細菌性膣症等を理解する。						
3	子宮の良性疾患、卵管の疾患				子宮筋腫、卵管炎等を理解する。						
4	性感染症				淋疾、梅毒、クラミジア感染症等を理解する。						
5	子宮頸癌				子宮頸癌、子宮体癌の原因、病態、診断、治療等を理解する。						
6	卵巣癌				卵巣癌の原因、病態、診断、治療等を理解する。						
7	腎臓の構造と機能				1) 腎臓の構造 2) 腎臓の機能						
8	腎疾患で生じる主な症状				1) 尿の異常 2) 循環器系の症状 3) 血液の異常 4) 血液系の症状 5) その他の症状						
9	腎疾患の主な検査と治療法				1) 診察の方法 2) 検査の種類と方法 3) 腎疾患の主な診察法						
10	主な腎疾患の診察				1) 腎不全 2) 一次性糸球体腎疾患 3) 二次性腎疾患 4) 尿細管性腎疾患 5) 尿路感染症 6) 尿路結石 7) 尿路閉塞 8) 腎腫瘍 9) 嚢胞性疾患						
11	泌尿器の構造と機能				1) 腎・泌尿器の構造 2) 腎・泌尿器の機能						
12	泌尿器疾患で生じる主な症状				1) 排尿異常 2) 尿量の異常 3) 尿の性状の異常 4) 疼痛 5) 発熱 6) その他の症状						
13	泌尿器疾患の主な検査と治療法				1) 診察の方法 2) 検査の方法 3) 診断の流れ 4) 治療の方法						
14	主な泌尿器疾患の診察				1) 腎臓及び尿管の疾患 2) 膀胱の疾患 3) 尿道の疾患 4) 陰茎及び陰嚢の疾患 5) 前立腺及び精嚢の疾患 6) 副腎の疾患						
15	試験				試験と解説						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		解剖学で学んだ女性生殖器の内容を復習しておくこと									
成績評価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 第15版 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎泌尿器 （医学書院）									
参考書		無し									
授業の留意点・備考											

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		脳神経疾患、耳鼻咽喉科臨床、眼科、救急医療に携わった経験を講義に活用する。									
授業概要		脳・神経系の解剖や疾患について基本的な知識を概説する。解剖・生理を中心とする耳鼻咽喉科領域の基礎を理解し、代表的疾患の病態・症状・治療について学習する。眼球及び眼関連組織の解剖、病態、各種疾患の概要、治療、予後等を学ぶ。救急・急変看護の基礎を理解し、病態・症状・治療について学習する。									
到達目標		脳・神経系の基礎的な解剖と主な疾患の病態を理解し看護への展開に活かす。耳鼻咽喉科領域の構造・機能を学習し、代表的疾患についての臨床的概要を理解することができる。眼球及び眼関連組織の解剖、病態、各種疾患の概要、治療、予後等を理解することで、眼疾患の患者看護の展開に活かすことができる。救急・急変看護の基礎を学習し、臨床的概要を理解することができる。									
授業計画											
回	テーマ	授業内容									
1	脳・神経系疾患を学ぶにあたって	医療・保健の動向や脳・神経疾患の患者の概況および心理・社会的問題、等									
2	脳・神経系の構造と機能	神経系の分類と機能、中枢神経系、末梢神経系、血管系、等									
3	脳・神経系疾患の症状と病態生理	神経系の役割、症状と病態生理、等									
4	神経学的検査・診断と治療・処置	診断と診察の流れ、検査、治療・処置、など									
5	疾患の理解 1	脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、等									
6	疾患の理解 2	脊髄疾患、末梢神経障害、感染症、認知症、等									
7	耳鼻咽喉科領域の基礎	解剖・生理を中心に耳鼻咽喉科領域器官の仕組みや役割について解説する。									
8	代表的な耳疾患	代表的な中耳炎・難聴・めまい疾患の病態・症状・治療について解説する									
9	代表的な鼻・咽喉頭疾患	代表的な鼻・咽喉頭疾患および緊急性を要する疾患についての病態・症状・治療について解説する。									
10	眼の構造と研解	眼球及び眼関連組織の解剖、眼疾患の症状とその病態生理									
11	眼疾患の各論 1	眼疾患に関する症状、診察、検査、治療ロービジョンケアについて (1)									
12	眼疾患の各論 2	眼疾患に関する症状、診察、検査、治療ロービジョンケアについて (2)									
13	救急・急変看護の基本・症状別看護①	救急・急変看護の基本 ショック、意識障害、けいれん、失神、麻痺、頭痛、めまい、胸痛									
14	症状別看護①	呼吸困難、動悸、腹痛、吐血、下血、嘔吐、発熱、腰背部痛、中毒									
15	症状別看護①	頭部外傷、脊椎・脊髄損傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、熱傷									
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。									
成績評価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経 〔14〕耳鼻咽喉 〔13〕眼（医学書院） ゼロからわかる救急・急変看護（成美堂出版）									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		私語を慎み周囲の人に迷惑をかけない。学生の間で眼科疾患を学ぶ機会は少なく、眼科医による講義は本科目のみであるため、不明な点は積極的に質問し理解を深めること。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	整形外科医として整形外科疾患に携わった経験を活かし、各疾患の病態、検査、治療についての講義を行うことができる。血液内科での勤務経験と認定看護師教育センターでの学びを活かし、血液疾患や化学療法についての講義を行うことができる。										
授 業 概 要	骨格系、筋系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解する。血液が造られる過程である造血の基礎を理解し、疾患についての理解を深め、治療に伴う副作用と支持療法について学習する。アレルギー膠原病に関しても、病態とその治療、症状を学習することができる。										
到 達 目 標	骨格系、筋系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かすことができる。造血の過程を理解することができ、疾患につなげる事ができる。造血器疾患、アレルギー膠原病の病態生理を理解し、各種症状をアセスメントし必要な治療につなげることができる。										
授 業 計 画											
回	テーマ	授 業 内 容									
1	整形外科疾患の症状とその病態生理	1) 疼痛 2) 形態の異常 3) 関節運動の異常 4) 神経の障害 5) 異常歩行または破行 6) 筋肉の障害									
2	診断・検査と治療・処理	1) 診察・診断の流れ 2) 検査 3) 手術療法 4) 義肢と装具									
3	外傷性(外因性)の運動器疾患①	1) 骨折 2) 脱臼 3) 捻挫および打撲									
4	外傷性(外因性)の運動器疾患②	1) 神経の損傷 2) 筋・腱・靱帯などの損傷									
5	内因性(非外傷性)の運動器疾患①	1) 先天性疾患									
6	内因性(非外傷性)の運動器疾患②	1) 骨・関節の炎症性疾患 2) 骨腫瘍および軟部腫瘍 3) 代謝性骨疾患									
7	内因性(非外傷性)の運動器疾患③	1) 筋および腱の疾患 2) 神経の疾患 3) 四肢の疾患 4) 運動器不安定症									
8	血液・造血器	1) 造血の仕組み 2) 血球の動態と機能 3) 貧血									
9	血液・造血器疾患①	造血器腫瘍の基本理念、化学療法、移植、輸血、白血病									
10	血液・造血器疾患②	悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、原発性マクログロブリン血症、血球貧食症候群									
11	血液・造血器疾患③	出血性疾患(血管の異常、血小板の異常、凝固・線容の異常)									
12	アレルギー膠原病①	薬物アレルギー、アナフィラキシー、蕁麻疹、接触性皮膚炎、食物アレルギー									
13	アレルギー膠原病②	免疫トランス、自己免疫疾患の病態、膠原病による各種症状について									
14	アレルギー膠原病③	膠原病の各種疾患の病態からの治療について									
15	試験	試験とまとめ									
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器 (医学書院)									
参 考 書											
授業の留意点・備考		教科書を使用した講義となります									

科目名	臨床薬理学				担当教員	飛野 幸子	
-----	-------	--	--	--	------	-------	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	熊本大学医学部附属病院で13年間、済生会熊本病院薬剤部で25年間の調剤業務・薬剤管理指導業務、また、熊本大学薬学部での講義経験を生かし、薬物の効果や副作用・医薬品管理・医療安全についての講義を行うことができる。										
-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業概要	薬物の特性・作用機序・副作用について基礎的な知識を学ぶことで、薬物の作用について理解する。系統的に薬の作用を学ぶことで、人体の機能についても理解を深める。また、臨床現場での安全管理では薬剤は重要であるため、実際の医薬品管理や薬剤使用時の取り扱いの注意点についての知識を得る。										
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

到達目標	薬剤の人体への影響について系統的に理解するとともに、人体の機能への理解を深めることができる。薬物の作用・有害作用について説明できる。医薬品の安全使用についての基本的な考え方を説明できる。医薬品の管理について説明できる。										
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業計画											
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授業内容
1	薬理学を学ぶにあたって	人類にとって薬物とは何かということ、使用目的・看護師の役割を通して学び、医療安全と薬について学習する。薬理学の成り立ちについても学ぶ。
2	薬理学の基礎知識①	薬が作用する仕組みについて学ぶ。薬の投与経路と体内動態について学ぶ。
3	薬理学の基礎知識②	薬力学・薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）・薬物の相互作用について学ぶ。
4	薬理学の基礎知識③	薬物使用の有益性と危険性について学ぶ。医薬品に関する法律について理解し、臨床現場での医薬品の取り扱いと注意点を学ぶ。
5	抗感染症薬①	感染症治療の基礎知識を学ぶ。抗感染症薬の作用機序と適正使用について理解し抗菌薬各論について学ぶ。また、特殊な感染症の治療薬について学ぶ。
6	抗感染症薬②	抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬について学ぶ。
7	抗がん薬	がん治療の基本的考え方を学ぶ。薬物治療の目的・抗がん作用の仕組み・抗がん薬各論を学ぶ。また、がん性疼痛の治療についても学ぶ。
8	免疫治療薬	免疫系の仕組みを理解し、免疫抑制薬と免疫増強薬について学ぶ。
9	抗アレルギー薬・抗炎症薬	アレルギー反応の成り立ちを理解し、抗アレルギー薬の作用機序と薬剤について学ぶ。炎症の発生機序を理解し、抗炎症薬の種類と特徴を理解する。
10	末梢神経に作用する薬物	末梢での神経伝達の仕組みを理解し、薬物の作用機序を学ぶ。交感神経・副交感神経・運動神経・知覚神経に作用する薬物について学ぶ。
11	中枢神経系に作用する薬物①	中枢神経系の組織と神経伝達物質・全身麻酔薬・抗不安薬・睡眠導入薬・向精神病薬・抗うつ薬・気分安定薬について学ぶ。
12	中枢神経系に作用する薬物②	パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬・麻薬・片頭痛治療薬について学ぶ。
13	循環器系に作用する薬物①	降圧薬・抗狭心症治療薬・心不全治療薬について学ぶ。
14	循環器系に作用する薬物②	不整脈についての基礎知識と抗不整脈薬について学ぶ。利尿薬・脂質異常症治療薬について学ぶ。
15	循環器系に作用する薬物③	血液凝固系・線溶系に作用する薬物（抗凝固薬・抗血小板薬・止血薬など）について学ぶ。貧血治療薬・血液悪性腫瘍薬について学ぶ。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬・鎮咳薬・呼吸促進薬について学ぶ。消化性潰瘍治療薬・制吐薬・便秘下痢に使用される薬物・整腸剤について学ぶ。性ホルモン依存性がん治療薬、更年期障害治療薬、下部泌尿器障害に使用される薬物について学ぶ。
17	物質代謝に作用する薬物①	糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬について学ぶ。
18	物質代謝に作用する薬物②	視床下部・下垂体ホルモンの作用と治療薬について学ぶ。治療薬としてのビタミンの役割について学ぶ。
19	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚の構造と薬物作用の基礎知識及び皮膚科領域に用いられる代表的な薬物について学ぶ。眼の構造と薬物の作用および眼科領域に用いられる薬物について学ぶ。
20	救急の際に使用される薬物	救急時に用いられる薬物（心臓・血管・脳・消化器・気管支などの急変に使用される薬物）について学ぶ。急性中毒に使用される薬物について学ぶ。
21	漢方薬・消毒薬	西洋薬と漢方薬の考え方の違い、漢方薬の臨床応用について学ぶ。滅菌と消毒の違い、消毒薬の種類とその臨床での使用について学ぶ。
22	輸液製剤・輸血剤・看護に必要な知識	輸液の目的と組成について学ぶ。輸血製剤の種類と管理、投与上の注意点について学ぶ。薬物の濃度計算・添付文書の活用について学ぶ。
23	試験	試験とまとめ
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおくこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕薬理学 第14版（医学書院） 今日の治療薬 解説と便覧 2020（南江堂）
参 考 書		
授業の留意点・備考		

科目名	微生物学	担当教員	松尾 和夫
-----	------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		研究機関において病原微生物を扱ってきた経験から、医療系大学において研究、講義及び実習を行ってきた。本教科ではそれらの経験を実践的な授業として生かすことができる。									
授 業 概 要		看護医療において感染症はさむめて重要な位置を占めている。本教科では病原微生物の性状、感染様式、発病機構、病原微生物と生体の免疫機能などを学ぶことにより、両者のバランスによって生じる疾病についての理解を深めることができる。また、診断方法や消毒方法など科学的な観点から理解することにより看護における感染症予防・対処方法に生かすことが可能になる。									
到 達 目 標		1. 病原微生物について形態、構造、性状及び増殖様式 2. 感染成立の要因 3. 感染源・感染経路からみた主要な感染症の概要 4. 感染に対する生体防御機構、とくに自然免疫と獲得免疫 5. 日和見感染、菌交代症及び院内感染 6. 消毒と滅菌の違い 7. 感染症の診断法と予防の概要 8. 主要な感染症の現状、再興・新興感染症及び感染症新法と対策など 以上について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	細菌学概要			微生物学の歴史、細菌学の基礎（形態、構造、培養、性状及び病原性など）							
2	微生物の性質			代謝、遺伝、薬剤耐性など							
3	ウイルスの概要			ウイルスの微細構造、増殖様式、DNAとRNAウイルス							
4	感染と感染症			病原性と生体防御の関係、感染の成立とその後の経過。感染源と感染経路、細菌感染の機構。ウイルス感染の機構。感染症法の対象となる感染症。							
5	日和見感染			常在細菌叢の役割。代表的な日和見感染。特殊な感染形式							
6	診断方法、消毒と滅菌について			感染症の検査と診断。病原体を検出する方法。生体の反応（血清学）から診断する方法。消毒と滅菌について。重要な消毒薬の殺菌スペクトル。							
7	感染に対する生体防御機構			自然免疫と獲得免疫。抗原に対する免疫応答。免疫の所在と免疫に係る細胞について。免疫の仕組み。免疫成立の過程。液性及び細胞性免疫。腸管免疫							
8	再興感染症			炭疽、結核、デング熱、黄熱病、狂犬病							
9	新興感染症			クリプトスポリジウム、腸管出血性大腸菌症、ヘリコバクター・ピロリ、マレーシア脳炎、SARS、MERS、新型コロナウイルス感染症							
10	血液媒介性感染症			AIDS、アメーバー赤痢、B/C型肝炎（A/E）							
11	臓器親和性ウイルス感染症			日本脳炎、季節性インフルエンザ、新型インフルエンザ、鳥インフルエンザ、ウエストナイル、日本脳炎。							
12	向汎性及び臓器親和性ウイルス感染症			麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、百日咳							
13	輸入感染症			コレラ、細菌性赤痢、チフス、ブルセラ、マラリア							
14	特殊な感染症			プリオン病、BSE、天然痘、ポリオ、エボラ出血熱、食中毒							
15	定期試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		各授業ごとに当該授業の重要点を問題形式にして配布するので事前に学習しておくこと。授業に使用した資料については見直しと重要項目については暗記が必要。通常1時間以上は要する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学 第13版（医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		授業に使用する資料を事前に配布するので、重要点を書き込む等の補足が重要。									

科目名	保健医療論Ⅰ						担当教員	菊池 仁美			
学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授業概要		医療の歴史と現代社会の医療について理解し、人々の健康と、これからの時代における望ましい医療の在り方を理解する									
到達目標		1. 医療と医療の原点を理解する 2. 医療の歴史と医療観の変遷及び健康の概念を学ぶ 3. 患者の立場から医療の在り方の問題を学ぶ 4. 医療をめぐる動向を理解し、望ましい医療の在り方とテーマを学ぶ									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	医学・医療のあゆみ（１）			人類の誕生と文化の発達を学ぶ							
2	医学・医療のあゆみ（２）			原始生活と病気・医術を学ぶ							
3	医学・医療のあゆみ（３）			医療の原始的形態を学ぶ							
4	医学・医療のあゆみ（４）			古代の医学を学ぶ							
5	医学・医療のあゆみ（５）			中世の医学を学ぶ							
6	医学・医療のあゆみ（６）			宗教医学からの脱却と医学の近代化を学ぶ							
7	医学・医療のあゆみ（７）			近代医学の基礎と臨床医学の近代化を学ぶ							
8	医学・医療のあゆみ（８）			近代医学の発展を学ぶ							
9	医学・医療のあゆみ（９）			今後の医学、医療の動向を学ぶ							
10	健康の概念（１）			健康の概念を学ぶ							
11	健康の概念（２）			疾病について							
12	健康の概念（３）			生活と健康を学ぶ							
13	医学と医療（１）			医学と医療を学ぶ							
14	医学と医療（２）			現代医療の本質を学ぶ							
15	医学と医療（３）			医療の実践を学ぶ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（ ）									
教科書		現代医療論 メジカルフレンド社									
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	保健医療論Ⅱ						担当教員	菊池 仁美			
学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		医療における看護師の役割を理解する									
到 達 目 標		1. 医療計画、医療サービスの推進、医療関係者の現状と今後の医療保障体制を理解する 2. 患者の権利について歴史的変遷の中から理解する									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	わが国の医療供給体制（１）			医療供給の現状と整備の経過を学ぶ							
2	わが国の医療供給体制（２）			医療関係者の現状と養成の実態を学ぶ							
3	わが国の医療供給体制（３）			医療保障の現状と課題を学ぶ							
4	現代医療における諸問題（１）			医療の進歩と医の倫理を学ぶ							
5	現代医療における諸問題（２）			医療における患者の権利を学ぶ							
6	現代医療における諸問題（３）			病状（真実）告知を学ぶ							
7	現代医療における諸問題（４）			脳死と臓器移植を学ぶ							
8	現代医療における諸問題（５）			死と生命保持、安楽死、死を共有する							
9	試験			まとめ							
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（ ）									
教 科 書		現代医療論 メジカルフレンド社 国民衛生の動向 2020/2021									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	公衆衛生学						担当教員	永野 恵			
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		これまで携わってきた公衆衛生学分（産業保健、環境保健、国際保健など）のフィールドワークや教育の経験を活かしながら、様々な資料を用いて講義内容の理解に寄与したい。									
授 業 概 要		予防医学の概念、人口問題、環境要因と健康問題・地球環境問題、各種保健統計、疫学、産業保健に関する講義を通して、生活者の疫病予防・健康増進を目的とする公衆衛生活動について学ぶ。									
到 達 目 標		健康や予防医学の概念について説明できる。様々な環境要因と健康との関係を理解し、主な公害や地空規模の環境問題についても説明できる。各人口統計指標とその意味するところを説明できる。疫学について説明できる。産業保健の意義や主な職業性疾病とその予防対策について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	公衆衛生学概論			公衆衛生の意義 健康の定義 予防医学の概念							
2	環境保健			自然環境、生活環境（廃棄物）、公害、地球環境問題							
3	人口統計①			人口静態統計、人口動態統計							
4	人口統計②			生命表（平均寿命・平均余命）、少子高齢化							
5	保健統計			健康指標、傷病統計（指標）、国際疾病分類（ICD）							
6	疫学			疫学とは、疫学調査方法、疫学の いい指標、因果関係の推定							
7	産業保健			労働衛生の変遷、労働衛生管理、職業性疾病							
8	試験			試験とまとめ							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業終了後に必ず教科書を読んでおくこと。また各章が終わるごとに「理解度チェック」の問題（プリント）を配布するので翌週に提出すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学 （メグカルフレッド社）									
参 考 書		国民衛生の動向（2019/2020）＊講義で使用了スライド（PP）その他の資料も随時配布する									
授業の留意点・備考		公衆衛生の守備範囲は広く、しかも生きた学問である。日頃、新聞・雑誌などにも目を通すこと。感染症対策や地域保健活動については講義時間の関係上他の科目に譲るが、各自必ず自学すること。									

科目名		関係法規				担当教員		荒木 紀代子			
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		保健医療福祉行政の実務経験に携わった経験やこれまでの研究等を活かして、人びとの健康支援に関連する法規について講義する。									
授業概要		少子高齢化が進展するわが国の社会保障制度の動向を学習し、看護を中心とする関係法令について学習する。									
到達目標		法の概念と厚生行政の仕組みを理解する。看護に関連する関係法規を理解するとともにその意義を説明できる。医事、保健衛生、社会保険、労働などに関する基本理念と法の体系を理解する。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	穂の概念と社会保障制度				法とは何かということを学び、社会保障制度の動向について理解する。						
2	衛生法と看護法				衛生法の歴史的変遷と保健師助産師看護師法の成り立ちを学ぶ。						
3	看護法				保健師助産師看護師法および看護師等の人材確保の促進に関する法律を学ぶ。						
4	医事法				医療法、保健医療福祉資格法および臓器移植に関する法律を学ぶ。						
5	保健衛生法				地域保健法、健康増進法および学校保健安全法を学ぶ。						
6	介護保険法と児童福祉法				介護保険法および児童福祉法を学ぶ。						
7	労働法				労働条件や職場の安全衛生など労働に関する法律を学ぶ。						
8	試験				試験とまとめ						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおくこと。									
成績評価		☒ 定期試験（80％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（20％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 第52版（医学書院）									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問すること。									

科目名		社会福祉					担当教員		高倉 統一			
学科	看護学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		健康支援と社会保障制度					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			熊本県国保連合会における介護保険サービス等苦情処理の業務経験を活かし、各制度の概要について講義を行うことができる。									
授 業 概 要			社会保障・社会福祉の理念、戦後社会保障法・政策の展開、社会福祉についての行政・民間組織、医療保障・社会福祉・年金・労働保険・社会手当・公的扶助制度の概要を講義します。									
到 達 目 標			不完全にしか知らないということは知らないということと同義です。この講義では、受講生が社会保障・社会福祉の基本概念（保険者・医療法人・開設者・ケアマネジメント等々）については、資格試験のみならず、医療機関・地域での現場業務にも適う水準となるようにします。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	社会保障とは何か①				社会保険の基礎概念を学ぶ。							
2	社会保障とは何か②				保険制度（保険関係・資格要件・給付内容）の基礎を学ぶ。							
3	医療保障①				医療保障制度における医療保険の位置づけ。							
4	医療保障②				医療保険制度の概要							
5	医療保障③				公費負担医療・精神医療の概要							
6	医療保障④				医事法（医療法、医師法、「保助看法」等）の概要							
7	労働保険				雇用保険法、労働者災害補償保険法の概要							
8	社会福祉とは何か①				社会福祉の基本理念（ノーマライゼーション、エンパワーメント）							
9	社会福祉とは何か②				社会福祉行政機関（厚生労働省の機関、福祉事務所、各種相談所）							
10	高齢者福祉法制				介護保険、高齢者医療制度の概要							
11	児童福祉法制				要保育・要保護・障害児福祉サービス							
12	障害者福祉法制				障害者総合支援法の概要							
13	年金保険				年金制度の概要							
14	社会手当				児童手当法等の概要							
15	公的扶助				生活保護制度の概要							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			予習は必要ありません。よく復習をおこなってください。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 50 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書			後日指定します。									
参 考 書			新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度3 社会福祉 第12版 （メヂカルフレンド社）									
授業の留意点・備考			毎回の講義において受講生に発言を求めます。									

科目名	看護学概論	担当教員	岡田玉子
-----	-------	------	------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
----	------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	----

区分	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	選択・必修	必修
----	-------	------	-------	-------	----

担当教員の実務経験	国立病院・民間病院での看護師経験、看護師長の経験を活かし、看護の概念や倫理等を教授できる。
-----------	---

授 業 概 要	看護学の構成、看護の理念、健康の概念、看護の対象、看護の機能、看護の歴史、看護理論(大理論)
---------	--

到達目標	1. 看護学を構成する各科目の考え方と位置づけを理解する。 2. 看護の概念について、看護理論家の理論を学ぶ。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	看護とは①	A看護の本質 B看護の役割と機能
---	-------	---------------------

2	看護とは②	C看護の継続と連携
---	-------	-----------

3	看護の対象の理解①	A人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味
---	-----------	-------------------------

4	看護の対象の理解②	B生涯発達しつづける存在としての人間の理解 C人間の「暮らし」の理解
---	-----------	------------------------------------

5	国民の健康と生活①	A健康のとらえ方
---	-----------	----------

6	国民の健康と生活②	B国民の健康状態 C国民のライフサイクル
---	-----------	----------------------

7	看護の提供者①	A職業としての看護
---	---------	-----------

8	看護の提供者②	B看護職の資格・養成制度・就業状況 C看護職者の継続教育とキャリア教育
---	---------	-------------------------------------

9	看護における倫理①	A現代社会と倫理 B医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
---	-----------	-------------------------------

10	看護における倫理②	C看護実践における倫理問題への取り組み
----	-----------	---------------------

11	看護提供のしくみ①	Aサービスとしての看護 B看護サービス提供の場 C看護をめぐる制度と政策
----	-----------	--------------------------------------

12	看護提供のしくみ②	D看護サービスの管理 E医療安全と医療の質の保証
----	-----------	--------------------------

13	広がる看護の活動領域①	A国際化と看護
----	-------------	---------

14	広がる看護の活動領域②	B災害時における看護
----	-------------	------------

15	まとめ	
----	-----	--

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	
---------------------------	--

成 績 評 価	☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☒ 課題 (10 %) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 ケースを通して やさしく学ぶ漢語理論 日総研
-----	---

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	
-----------	--

科目名	看護研究理論	担当教員	原口 真由美
-----	--------	------	--------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅰ	教育内容	看護研究						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	大学病院での院内教育担当経験、専門学校、大学での研究指導経験を生かし講義を行なうことができる。
-----------	---

授 業 概 要	看護研究の意義を理解し、看護研究についての基礎的知識を学ぶ。
---------	--------------------------------

到達目標	研究の必要性、目的、方法について学び、看護研究の基本的考え方、進め方、倫理的配慮について理解し、看護論文のまとめかたについて知識を習得する。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	研究の意義	研究とは・看護研究とは・研究プロセスの概要を学ぶ。
2	リサーチクエスションと文献検索	リサーチクエスションの必要性和文献活用方法について学ぶ。
3	倫理的配慮・研究デザイン	研究倫理について考える。また、研究デザインの方法について学ぶ。
4	データ分析（質的研究）	質的研究の分析方法を学ぶ。
5	データ分析（量的研究）	量的研究の分析方法を学ぶ。
6	事例研究・ケーススタディー①	事例研究とケーススタディーの違い及びその概要を学ぶ。
7	事例研究・ケーススタディー②	事例研究及びケーススタディーの進め方を理解する。
8	研究発表・プレゼンテーション	研究発表のフィールドについて・効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。
9	試験	試験とまとめ
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	予定授業の項目について、テキストを読んでおく。授業資料とテキストをもって復習する。
---------------------------	---

成績評価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	系統看護学講座別巻 看護研究 医学書院
-----	---------------------

参 考 書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 昭林社
-------	--------------------------------

授業の留意点・備考	看護研究演習に向け、知識・方法を理解しておく必要がある。予習・復習を十分におこなうこと。
-----------	--

科目名	看護研究演習						担当教員	原口 真由美			
学科	看護学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門分野 I	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	大学病院での院内教育担当経験、専門学校、大学での研究指導経験を生かし講義を行なうことが										
授業概要	看護研究理論で学習した知識をもとに、臨地実習で受け持った事例を振り返り自らが起こった看護から得られた結果を分析し、事例研究をまとめる。この過程を通して、倫理的思考や科学的問題解決能力を養い、看護観を深める。また、研究の効果的なプレゼンテーションの方法や、研究倫理についても演習を通し学ぶ。										
到達目標	1. 看護研究理論で学習した知識をもとにリサーチクエスションを立て研究計画に基づいて研究を進める。 2. 得られた結果の考察を経て、論文をまとめ、これらの過程を通して倫理的思考や科学的問題解決能力を養う。 3. 研究発表をとおし、効果的なプレゼンテーション力を身につける。										
授業計画											
回	テーマ	授業内容									
1	研究の意義・アウトライン	研究の進め方、テーマの表現方法、文献検索の一般的方法									
2	看護研究の進め方	研究デザインについて									
3	事例研究とケースレポート	事例研究の進め方、研究計画書作成									
4	看護研究の実際	はじめに、考察、結論、おわりに、の記述方法、発表方法									
5	ケースレポートの実際	実際に記述してみよう									
6	研究実践	個人ワーク及び担当教員より指導を受け研究を進める									
7	研究実践	個人ワーク及び担当教員より指導を受け研究を進める									
8	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
9	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
10	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
11	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
12	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
13	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
14	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
15	研究発表会	研究結果を、それぞれ発表する。									
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 90 %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 10 %） ☒ その他（ 担当教員とのコンタクト状況等を含めた総合評価）									
教科書		系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院									
参考書		看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 照林社									
授業の留意点・備考		実習にて対象を決定し、担当教員からの指導を受け計画的に進める。									

科目名	基礎看護技術Ⅰ	担当教員	松尾 祐子 工藤 かしみ 蓮田 叔江・佐野 絹子
-----	---------	------	--------------------------------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	急性期病院での看護経験を活し基本的コミュニケーションの講義を行うことができる。 内科・外科病棟に入院する患者の看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。										
授業概要	看護技術には、全人的なかかわり、人間関係が基盤、状況変化への対応、患者の権利擁護、倫理的判断が求められるなどの特徴がある。看護援助の基盤となる科目である。										
到達目標	①看護技術の目的を把握する。②正確な方法を熟知する。③看護技術の根拠を考える。④患者への適用意義と個別性を考慮する。⑤インフォームドコンセントの理解。⑥安全・安楽を確保する。⑦プライバシーを保護する。⑧患者の状態や反応を確認しながら実施する。⑨実施後の客観的評価と主観的評価。										

授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素・成立過程					コミュニケーションとは、医療におけるコミュニケーション。手段・構成要素・成立過程を理解し実際の場面で活用する意味を考える。					
2	効果的なコミュニケーションの実践					傾聴の技術、情報収集の技術、説明の技術、アサーティブネスについて説明					
3	コミュニケーション障害がある人への対応					コミュニケーション障害がある人の特徴、言語的コミュニケーションに必要な身体機能、コミュニケーション障害がある人への対応。					
4	療養環境について					療養環境の調整の意義、構成要素、病室と病床の環境調整を学ぶ					
5	ベッドメイキング・リネン交換					ベッドメイキング・リネン交換の実践を学ぶ					
6	臥床患者のシーツ交換					臥床患者のシーツ交換の方法を学ぶ					
7	感染予防について					感染と感染予防の基礎知識、看護師の責務と役割を学ぶ					
8	スタンダードプリコーション					CDCガイドライン、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策感染源対策を学ぶ					
9	感染経路への対策					感染経路への対策（手洗い・防護用具・無菌操作）感染性医療廃棄物に関する基礎知識を学ぶ					
10	活動・休息援助技術について					活動・休息援助技術（基本的活動の援助、体位、体位変換、移動・移乗・移送）の実践を学ぶ					
11	体位変換、移動・移乗・移送の技術					体位変換、移動・移乗・移送の技術に関する基礎知識と方法を学ぶ					
12	体位変換、移動・移乗・移送の実践					体位変換、移動・移乗・移送の実践を演習する					
13	睡眠と休息の援助					睡眠と休息の援助（基礎知識、睡眠障害のアセスメント、援助の実践）を学ぶ					
14	苦痛の緩和・安楽確保の技術					苦痛の緩和・安楽確保の技術（体位保持、電法、身体ケアを通じてもたらされる安楽）を学ぶ					
15	体位保持、電法の技術					体位保持、電法の技術を学ぶ					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	ヘルスアセスメント、健康歴とセルフケア能力のアセスメント	ヘルスアセスメントのための知識を学ぶ
17	フィジカルアセスメントに必要な技術（１）	体温に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
18	フィジカルアセスメントに必要な技術（２）	脈拍に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
19	フィジカルアセスメントに必要な技術（３）	呼吸に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
20	フィジカルアセスメントに必要な技術（４）	血圧（触診法）に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
21	フィジカルアセスメントに必要な技術（５）	血圧（聴診法）に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
22	フィジカルアセスメントに必要な技術（６）	意識に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
23	フィジカルアセスメントに必要な技術（７）	身体計測に関する基礎知識と測定方法を学ぶ
24	診査（聴診、打診、触診）技術演習	聴診・打診・触診の実際を演習する
25	呼吸器系、循環器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系、循環器系をアセスメントするための知識を学ぶ
26	乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント	乳房・腋窩、腹部をアセスメントするための知識を学ぶ
27	筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント	筋・骨格系、神経系をアセスメントするための知識を学ぶ
28	頭頸部・感覚器・外皮系のフィジカルアセスメント	頭頸部・感覚器・外皮系をアセスメントするための知識を学ぶ
29	心理・社会状態のアセスメント	対象の心理・社会状態をアセスメントするための知識を学ぶ
30	バイタルサイン測定技術演習	バイタルサイン測定の一連を演習する
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		解剖生理学を理解しておくこと
成 績 評 価		☒ 定期試験（ %） ☒ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（ ）
教 科 書		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
参 考 書		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第２版 医学書院
授業の留意点・備考		各教員により成績評価の違いあるため、授業中に説明あり

科目名	基礎看護技術Ⅱ	担当教員	戸國 真佐子
-----	---------	------	--------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	病棟・在宅看護の経験を活かし、基礎的な看護の知識・技術を講義・演習を通して教授することができる
-----------	---

授業概要	1. 食事・排泄の意義を学び、状態に応じた食事・排泄の基本的援助方法を習得する。 2. 皮膚・粘膜の構造と機能を学び、清潔援助の効果、呼吸・循環器など全身への影響の基礎知識を得る。対象の病態に応じた清潔に関する基本的・具体的な援助方法について学習する。
------	---

到達目標	1. 対象の健康状態に応じた食事援助の根拠と方法を学ぶ。 2. 排泄の日常生活援助技術および、排泄障害に関連した基礎的な看護を学ぶ。 3. 清潔援助の基礎知識と生体・精神に及ぼす影響を理解し、適切な援助方法を習得する。 4. 衣生活の基礎的な知識を学び、適切な援助方法と技術を習得する。
------	--

回	テーマ	授業内容
1	食事を摂取するための身体構造と機能(1)	食事・栄養摂取の意義と仕組み
2	食事を摂取するための身体構造と機能(2)	食事・栄養摂取についてのアセスメント
3	食事を摂取するための身体構造と機能(3)	安全で安楽な食事摂取の援助
4	非経口的栄養摂取法	非経口的な栄養摂取の方法とその看護
5	安全で安楽な食事の援助	安全で安楽な食事介助の技術(演習)
6	排泄のメカニズム(1)	水分摂取と吸収・尿の生成と排尿の仕組み
7	排泄のメカニズム(2)	消化と吸収・便の形成と排便の仕組み
8	排泄における日常生活援助	排泄における日常生活援助の種類と援助
9	排泄障害・排泄行動と看護(1)	排泄機能障害の機序・種類
10	排泄障害・排泄行動と看護(2)	排尿障害のある患者のアセスメントと看護
11	排泄障害・排泄行動と看護(3)	排便障害のある患者のアセスメントと看護
12	排泄障害・排泄行動と看護(4)	排泄器具の使用法・おむつの当て方・浣腸(演習)
13	排泄障害・排泄行動と看護(5)	排泄器具の使用法・おむつの当て方・浣腸(演習)
14	排泄に伴う看護技術・援助(6)	一時的導尿法の実施(演習)
15	排泄に伴う看護技術・援助(7)	一時的導尿法の実施(演習)

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	皮膚粘膜の構造と機能	清潔の援助の基礎知識
17	対象に応じた看護（１）	清潔援助の基礎知識と対象にもたらす効果
18	対象に応じた看護（２）	対象の状態に応じた援助の決定と留意点を理解
19	清潔援助の実際（３）	入浴・シャワー浴の実際（DVD）
20	清潔援助の実際（４）	全身清拭・洗髪（DVD）
21	清潔援助の実際（５）	手浴・足浴とフットケア（演習）
22	清潔援助の実際（６）	手浴・足浴とフットケア（演習）
23	清潔援助の実際（７）	洗髪（演習）
24	清潔援助の実際（８）	洗髪（演習）
25	清潔援助の実際（９）	全身清拭（演習）
26	清潔援助の実際（１０）	全身清拭（演習）
27	清潔援助の実際（１１）	陰部洗浄とおむつ交換
28	清潔援助の実際（１２）	整容と口腔ケア
29	衣生活の援助	衣生活に関する援助の基礎知識と衣生活のニーズのアセスメント
30	衣生活の援助の実際	病衣の選び方 病衣・寝衣の交換
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		レポート課題・授業内容復習の小テスト
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 50 %） ☒ 実技試験（ 20 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		1. 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 2. 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 3. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参 考 書		
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問して解決すること。 授業を欠席した場合は教科担当に申し出て授業で使用した必要な資料をもらいに来ること。 授業態度は加減点の対象とする。

科目名	基礎看護技術Ⅲ	担当教員	武本 史子 工藤 かしみ
-----	---------	------	-----------------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
----	------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	-------

区分	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	選択・必修	必修
----	-------	------	-------	-------	----

担当教員の実務経験	I C U ・ 一般病棟 ・ 在宅領域における経験を活かし、講義・演習を行うことができる。 内科・外科病棟に入院する患者の看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。
-----------	--

授 業 概 要	診療に関する援助技術、治療・処置・検査・救命救急処置・呼吸循環に症状のある患者の看護に必要な基礎知識、基本技術、基本姿勢について講義や演習を通して学習する。
---------	--

到 達 目 標	呼吸循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、救命救急処置技術、症状・生体機能管理技術、 診察・検査・処置の介助技術の基礎知識を学び、それらに伴う技術を理解できる。
---------	--

授 業 計 画	
---------	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	呼吸循環を整える技術①	酸素吸入法、吸入について学ぶ。
2	呼吸循環を整える技術②	酸素吸入療法・吸入を演習する。
3	呼吸循環を整える技術③	排痰ケア、持続吸引（胸腔ドレナージ）について学ぶ。
4	呼吸循環を整える技術④	排痰ケア、一時的吸引を演習する。
5	呼吸循環を整える技術⑤	人工呼吸療法、体温管理の技術、末梢循環促進ケアについて学ぶ。
6	創傷管理技術①	創傷管理の基礎知識や創傷処置について学ぶ。
7	創傷管理技術②	褥瘡予防について学ぶ
8	創傷管理技術③	包帯法を演習する。
9	症状・生体機能管理技術①	症状・生体機能管理技術の基礎知識、検体検査について学ぶ。
10	症状・生体機能管理技術②	血液検査の演習をする。（血糖測定）
11	症状・生体機能管理技術③	血液検査の演習をする。（静脈採血）
12	症状・生体機能管理技術④	生体情報のモニタリングについて学ぶ。
13	症状・生体機能管理技術⑤	心電図・Spo2モニターなどについて演習する。
14	診察・検査・処置の介助技術①	診察の介助、検査・処置の介助（X線・C T ・ M R I ・ 内視鏡）について学ぶ。
15	診察・検査・処置の介助技術②	診察の介助、検査・処置の介助（超音波・肺機能・核医学・穿刺）について学ぶ。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	与薬の基礎知識	与薬における看護師の役割・法的責任・患者への援助について学ぶ。
17	与薬の種類と与薬方法	内用薬・外用薬の特徴と与薬方法と留意事項について学ぶ。
18	注射法の基礎知識、種類と特徴①	注射法の特徴と与薬方法の留意事項と使用する物品とその取り扱いについて学ぶ
19	注射法の基礎知識、種類と特徴②	注射法の種類と安全・確実に与薬するための知識を学ぶ。 (皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射)
20	注射法の基本技術	注射薬の準備(処方箋の読み方、指示内容の確認、注射器・注射針の取り扱い)について演習する。
21	筋肉内注射の技術①	筋肉内注射を安全に確実に実施するための準備を演習する。
22	筋肉内注射の技術②	モデルを用いて筋肉内注射の正しい注射部位選択と実施法を演習する。
23	静脈内注射(ワシヨット)の技術①	静脈内注射(ワシヨット)を安全・確実に実施するための準備を演習する。
24	静脈内注射(ワシヨット)の技術②	モデルを用いて静脈内注射(ワシヨット)の正しい注射部位選択と実施について演習する。
25	点滴静脈内注射の技術と輸液管理①	モデルを用いて点滴静脈内注射の準備と実施法を演習する。
26	点滴静脈内注射の技術と輸液管理②	モデルに実施した輸液の滴下調整と看護について演習する。
27	点滴静脈内注射の技術と輸液管理③	留置針による輸液ラインの確保と輸液ポンプ、シリンジポンプを使った輸液管理について演習する。
28	輸血療法の基礎知識と援助の実際	輸血の種類・管理方法、副作用(有蓋事象)の観察方法について学ぶ。
29	救命救急処置・止血法の基礎知識	救急対応の考え方、急変時の初期対応、止血法について学ぶ。
30	心肺蘇生法の基礎知識と援助の実際	1次救命処置と2次救命処置について演習する。
準備学習(予習復習)の具体的な内容		解剖生理学の知識があらゆる看護技術の根拠となるため人体の構造と機能については復習しておくこと
成 績 評 価		☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (10 %) ☐ 発表 (%) ☒ その他(出席・態度等)
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③
参 考 書		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版 医学書院
授業の留意点・備考		演習必須の科目であり、授業時間以外の研修時間を利用し演習する場合もある。

科目名	基礎看護技術Ⅳ						担当教員	武本 史子 吉田 香代子			
学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	病院や保健センター、在宅分野での実務経験を活かし、基本的な看護技術や指導技術について講義・演習ができる。										
授業概要	対象の発達段階や健康の段階及び症状にかかわることなく、あらゆる対象に共通する指導・安全・看取りの技術について、その特性と根拠を学ぶ。										
到達目標	健康段階：健康状態の変化に伴う看護実践がわかる。 指導技術：疾病の予防・セルフコントロールのための教育・指導技術の基本を身につける。 安全：頻度の高いトラブルの発生要因と対策がわかる。 看取り：死にゆく患者とその援助をイメージできる。										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	急性期の看護について				急性期、回復期における看護、合併症予防と回復支援、侵襲に対する生体反応について学ぶ						
2	慢性期の看護について				慢性期における看護、セルフケア・自己効力感・エンパワメントを学ぶ						
3	終末期の看護について				終末期における看護、化学療法・放射線療法での看護を学ぶ						
4	看護における教育・指導の必要性				看護における教育・指導、健康教育の重要性、セルフケアの概念と教育、ニーズへの対応について学ぶ						
5	指導の対象者および指導の場とは				指導の対象者および指導の場について学ぶ						
6	個人と集団の指導方法				指導におけるアプローチ方法、個人と集団の教育・指導のメリットとデメリットを学ぶ						
7	患者指導の進め方				指導の進め方（指導内容・指導方法・指導教材）を学ぶ						
8	患者指導評価				指導の評価（指導内容・指導方法・指導教材）を学ぶ						
9	死亡時の特徴と家族へのケアについて				死亡の場所の特徴とそれぞれの場でのケア及び家族へのケアを学ぶ。						
10	死後の処置について				わが国の風習に根づく死後の処置の基礎知識や援助の実践を学ぶ。						
11	医療安全とは				第5章 看護場面で間違いが起きることをイメージし、「医療安全」の成り立ちと法的責任を理解する。						
12	事故の発生メカニズムと再発防止について				重大事故事例の発生要因を検討することで、事故の発生メカニズムと再発防止策を理解できる。						
13	与薬の確認について				与薬に関する間違いの要因と防止策を学ぶことにより、正しい5R確認方法を身につける。						
14	チューブ・ライン類のトラブルについて				チューブ・ラインの種類と特徴から起こりやすいトラブルの要因と防止策を学ぶ。						
15	転倒・転落について				転倒・転落の発生要因とリスクアセスメントチェックリストを学び、防止策を理解する。						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☒ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（ ）									
教科書		系統看護学講座 基礎看護学Ⅱ 医学書院									
参考書											
授業の留意点・備考		複数教員であるため、成績評価については授業中に説明あり									

科目名		基礎看護技術Ⅴ					担当教員		吉田 香代子			
学科	看護学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅰ		教育内容		基礎看護学					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			総合病院や保健センターでの実務経験を活かし、看護の展開、社会生活に向けての援助について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要			看護のあり方は、個人の健康問題を看護の目で総合的に把握・分析し、看護計画を立案、実施・評価するという一連の流れの中で、対象の健康回復を促すことである。本授業において、「看護の目から患者をみる」こと「健康回復のための情報分析及び援助の方向性を導き出す」ことの考え方を学ぶ。									
到 達 目 標			1. 問題解決思考をもとに、看護の過程における思考の方法を習得する。 2. 看護実践に必要な技術の基礎的知識を理解でき、看護過程の展開ができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	看護過程の概要				看護過程を理解する ①看護過程の概要 ②看護過程とは							
2	看護過程の各段階				① アセスメント：情報の意味づけ② 看護問題の明確化(看護診断) ③ 計画 ④ 実施 ⑤ 評価							
3	症状をアセスメントしていく				看護過程の各段階の相互関係：症状に対してのアセスメント							
4	看護過程を展開する考え方				①問題解決過程②クリティカルシンキングと看護過程との関係③倫理的判断 ④リフレクション							
5	看護記録の書き方を理解する				看護記録の構成・留意点を学ぶ							
6	急性心筋梗塞をアセスメントしてみる				事例を用いてのペーパーシミュレーション 事例：急性心筋梗塞事例紹介							
7	情報収集の方法をグループで考えてみる				急性心筋梗塞での情報収集を理解する：ゴードンの11項目（グループワーク）							
8	ゴードンの11項目に分けて情報を整理する				アセスメントを理解する（個人でのアセスメント検討）							
9	情報整理をグループで考えてみる				アセスメントを理解する（グループでのアセスメント検討）							
10	看護問題の明確化				看護問題の明確化(看護診断)を理解する（個人ワーク）							
11	看護計画とは				看護計画を理解する。看護計画の構成要素（目標・観察計画・援助計画・教育計画）を学ぶ							
12	看護計画立案（1）				看護計画を理解する（個人ワーク）							
13	看護計画立案（2）				看護計画を理解する（グループワーク）							
14	看護計画の実施と評価とは				看護における実施・評価を理解する（個人での看護を評価）							
15	リフレクション				看護過程の展開をリフレクションし、学びを深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			急性心筋梗塞の病態整理、心臓の機能と構造									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 50 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☒ 課題（ 50 ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書			系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院									
参 考 書			1. 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 古橋洋子著 2. NANDA－Ⅰ看護診断 2018－2020 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院									
授業の留意点・備考			基礎看護学実習Ⅰと同時期に授業を行うことによって、患者の持つ情報の重要性に気づくことができるよう授業をすすめていく。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期病棟、慢性期病棟での入院患者への看護経験を基に、成人期の看護の講義・演習を行う。									
授 業 概 要		ライフサイクルにおける成人各期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解し、成人期の対象の理解と健康問題、その人にとって最適な健康の保持、増進への看護の実践を学ぶ。									
到 達 目 標		1 ライフサイクルにおける成人各期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解する。 2 成人各期の発達課題、健康問題を理解する。 3 成人保健の意義を理解し、成人の健康の保持、増進の実践について学ぶ。 4 成人の看護の特徴、関連する看護理論について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	Ⅰ 成人の生活と健康 1. 成人看護学対象理解			1) 成人の定義2) 成人の発達段階・発達課題3) 成人を取り巻く環境と生活							
2	4) 成人各期の特徴			(1) 成人各期の特徴 ①身体的特徴 ②心理・社会面の特徴							
3	5) 成人の生活を理解するための視点と方法			(1) 成人保健の目的・人口構成と年齢・平均寿命・死亡状況の変遷							
4	Ⅱ 成人への看護アプローチの基本 1. 成人期における健康障害の特徴①			1) 成人の健康行動 2) 健康問題をもつ成人と看護師の人間関係成人期の疾病構造							
5	1. 成人期における健康障害の特徴②			3) 健康問題をもつ成人と看護師の人間関係							
6	1. 成人期における健康障害の特徴②			4) 集団へのアプローチ 5) 看護におけるマネジメント 6) 意思決定支援 7) 家族支援							
7	Ⅲ 成人の健康レベルに対応した看護			1. ヘルスプロモーションと看護							
8	2. 健康をおびやかす要因			1) 健康とは (1) 健康の定義 (2) 必要な援助 2) 生活行動がもたらす健康問題							
9	3. 急性期①			1) 急性期の定義と対象 2) 必要な援助							
10	3. 急性期②			3) 看護理論：危機理論 4) 不安侵襲的治療を受ける患者への看護技術							
11	4. 慢性期			(1) 慢性期の定義と対象 (2) 必要な援助 (3) 看護理論：障害受容過程、セルフケアとセルフマネジメント							
12	5. リハビリテーション期			(1) リハビリテーション期の定義と対象 (2) 必要な援助							
13	6. 終末期			(1) 終末期の定義と対象 (2) 必要な援助 (3) 看護理論：死の受容過程							
14	Ⅳ 成人の健康生活を促すための看護技術①			1) エンパワメント・エデュケーション 2) 自己効力を高める看護教育							
15	Ⅳ 成人の健康生活を促すための看護技術②			3) 退院支援の看護技術 4) 症状マネジメントと看護							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名		成人看護学援助論Ⅰ					担当教員		大平 康伸/吉峰 代祐		
学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期・慢性期の循環器疾患のある患者や地域で生活する人々に関わった経験を活かし、循環機能障害を持つ患者の看護について講義・演習を行うことができる。呼吸器内科病棟にて、呼吸器看護に携わった経験を活かし、呼吸機能障害による症状、検査・治療について講義を行うことができる。また、呼吸療法認定士や、特定行為看護師（2区分）として学んだことを用いて呼吸器看護に興味を持ってもらえるような講義を行なう。									
授 業 概 要		成人期にある循環機能障害を持つ人の看護について学習する。呼吸機能障害と日常生活について学習する。呼吸機能障害の把握と看護について学習する。呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護について学習する。呼吸機能障害のある患者の看護について学習する。									
到 達 目 標		成人期にある人の循環機能障害について説明できる。循環機能障害にある成人の看護について説明できる。呼吸機能障害がもたらす生命・生活への影響を説明できる。呼吸機能障害による症状の把握をできる。呼吸機能障害における検査・治療における説明ができる。呼吸器疾患を抱える患者の呼吸機能障害を理解し、説明ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	循環障害のある患者の特徴と看護の役割 循環障害でみられる症状に対する看護			循環障害のある患者の経過と看護について学習する。循環障害でみられる症状に対する看護について学習する。							
2	循環器疾患を持つ患者の看護（１）			虚血性心疾患患者のかんごについて学習する。							
3	循環器疾患を持つ患者の看護（２）			心不全患者の看護について学習する。							
4	循環器疾患を持つ患者の看護（３）			血圧異常患者、不整脈患者の看護について学習する。							
5	循環器疾患を持つ患者の看護（４）			心臓弁膜症患者、心筋症患者の看護について学習する。							
6	循環器疾患を持つ患者の看護（５）			動脈系疾患患者、静脈系疾患患者、脂質異常症患者の看護について学習する。							
7	循環器疾患を持つ患者の看護（６）			心臓手術を受ける患者の看護について学習する。							
8	心臓リハビリテーションと看護			心臓リハビリテーションの概要、心臓リハビリテーションにおける看護師の役割と活動について学習する。							
9	呼吸機能障害と日常生活			1.呼吸機能とその役割 2.呼吸機能とその障害 3.呼吸機能障害がもたらす生命・生活への影響							
10	呼吸機能障害の把握と看護			1.呼吸困難 2.咳嗽・喀痰 3.血痰・咯血 4・胸痛							
11	呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護①			呼吸機能の検査に伴う看護							
12	呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護②			呼吸機能障害の治療に伴う看護							
13	呼吸機能障害のある患者の看護①			1.気管支喘息患者の看護 2.慢性呼吸器疾患患者の看護 3.間質性肺炎患者の看護							
14	呼吸機能障害のある患者の看護②			1.肺がん患者の看護 2.鉄欠乏性貧血患者の看護							
15	試験			試験とまとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習復習に取り組む									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ 10 ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（3）循環器（医学書院） 新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護Ⅰ 呼吸機能障害/循環機能障害 第2版 別巻（ぎょうせい社）									
参 考 書		必要時に資料配布予定 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③（医学書院） ・系統看護学講座 専門基礎 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①（医学書院）									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問すること。									

科目名	成人看護学援助論Ⅱ						担当教員	長島 久美			
学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	総合病院で周術期における看護を経験し、さらに患者指導を通して対象の生活に着目した看護を活かし講義・演習を行うことができる。										
授業概要	成人期にある人を対象として、生活者としての消化・吸収機能、栄養代謝機能とその障害を持つ人への看護を理解する。										
到達目標	1 消化・吸収機能および栄養代謝機能が人間の生命・生活に果たす役割を理解する。 2 消化・吸収機能および栄養代謝機能が障害される要因について理解する。 3 消化・吸収機能および栄養代謝機能が成人期の対象に及ぼす影響を理解し、消化吸収機能障害をもつ成人の看護を理解する。										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	消化・吸収に関する疾患に対する看護				消化・吸収機能障害と日常生活						
2	消化・吸収に関する疾患に対する看護				消化・吸収機能障害の病態生理						
3	消化・吸収に関する疾患に対する看護				消化・吸収機能障害の症状と看護 食欲不振・嚥下障害・悪心・嘔吐・腹部膨満						
4	消化・吸収に関する疾患に対する看護				消化・吸収機能障害の症状と看護 下痢・便秘・吐血・下血・腹痛						
5	消化・吸収に関する疾患に対する看護				治療・処置を受ける患者への看護						
6	消化・吸収に関する疾患に対する看護				消化・吸収機能の検査と看護						
7	消化・吸収に関する疾患に対する看護				消化・吸収機能障害の治療と看護						
8	消化・吸収に関する疾患に対する看護				食道疾患患者の看護、胃・十二指腸疾患患者の看護						
9	消化・吸収に関する疾患に対する看護				腸・腹膜疾患患者の看護、大腸癌患者の看護（ストーマ造設）						
10	消化・吸収に関する疾患に対する看護				周手術期の看護、ストーマ処置						
11	栄養・代謝に関する疾患に対する看護				栄養・代謝機能障害と生命・日常生活への影響						
12	栄養・代謝に関する疾患に対する看護				栄養・代謝機能障害の把握と看護						
13	栄養・代謝に関する疾患に対する看護				栄養・代謝機能障害の治療と看護 （肝不全・高尿酸血症）						
14	栄養・代謝に関する疾患に対する看護				栄養・代謝機能障害の治療と看護 （脂質異常症・肥満）						
15	栄養・代謝に関する疾患に対する看護				栄養・代謝機能障害の治療を受ける患者の看護						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		疾患に関する病態生理や看護について、教科書を熟読しておく									
成績評価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 消化器（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝（医学書院）									
参考書		事例に関する参考書									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。 提出物については、期限厳守とし、守られなかった場合は減点とする。									

科目名	成人看護学援助論Ⅲ	担当教員	満井美奈子/福山隆光/藤本有紀
-----	-----------	------	-----------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	手術室・外科系病棟等の臨床経験を活かし、感染管理認定看護師としての知識・情報・技術に関し看護師としての感染症の知識、感染予防策、疾患の理解について講義・演習を行う事ができる。病院や施設での臨床経験や尿路障害の専門的な知識を活かした講義を行います。
-----------	---

授業概要	感染症・検査・診断・治療に関する基礎と、疾患の理解、患者の看護、感染予防策について学習する。成人看護学の専門分野である「内分泌・代謝」より血糖調節機能・pH調節機能障害を中心に学習します。
------	--

到達目標	感染症を学ぶ目的を理解できる。標準予防策や感染経路別予防策が理解できる。医療を取り巻く感染症を理解できる。感染症の症状が理解できる。感染症の検査・治療薬が理解できる。感染症患者の看護が理解できる。血糖調節・pH調節に関連する疾患と、その看護を理解することができる。患者、家族への必要な援助やチームアプローチについての方法を理解できる。
------	---

授業計画	
------	--

回	テーマ	授業内容
1	感染症とは・検査・診断・治療	感染症を学ぶにあたって・感染症とは・検査診断治療の流れ・検査の実際・感染症治療の原則・抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・その他の治療・一次予防と二次予防
2	疾患の理解	発熱不明熱・上気道・下気道・心血管系・消化管・肝胆道系・尿路・性・皮膚軟部組織・目・中枢神経・悪性腫瘍等・菌血症敗血症・人動物咬傷・その他ウイルス・寄生虫
3	患者の看護（感染予防策・防護具）	感染予防スタンダードプリコーション（DVD/演習あり）・感染経路別予防策・洗浄・消毒・滅菌・職業感染対策（DVD使用）・サーベイランス・予防接種とワクチン
4	患者の看護（症状に対する看護・検査治療における看護・疾患を持つ患者の看護）	発熱・発疹・下痢・検体採取・抗菌薬投与中看護HIV/AIDS患者の病期に応じた看護・敗血症患者の看護・日和見感染に対する看護・造血幹細胞移植を受ける患者の看護
5	pH調節障害と日常生活	1) pH調節機能とその役割 2) pH調節機能とその障害 3) pH調節障害がもたらす生命・生活への影響
6	pH調節機能障害の把握と看護	1) 呼吸性アシドーシス 2) 代謝性アシドーシス 3) 呼吸性アルカローシス 4) 代謝性アルカローシス
7	pH調節機能・尿路障害の検査治療に伴う看護①	1) ポンプ・輸送還流機能を把握するための検査と看護
8	pH調節機能・尿路障害の検査治療に伴う看護②	2) pH調節機能障害の治療に伴う看護 3) pH調節機能障害をもつ患者の看護
9	血糖調節機能とその役割	疾患の概要について学ぶ。
10	糖代謝疾患の症状と合併症	疾患でみられる症状と、その原因からの予防について学ぶ。
11	糖代謝疾患の治療と検査	各疾患における症状とその病態生理を理解し、治療と検査について学ぶ。
12	看護と療養支援	疾患に対する看護の基礎と必要とされるチームアプローチについて学ぶ。
13	自己血糖測定と自己注射の手順と指導方法	正しい手順と確実な、自己管理の方法について学ぶ。
14	症例検討	症例を通してアセスメントし、看護活動についてグループワークを行う。
15	試験	試験とまとめ

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	教科書を読んでおく。
成績評価	☒ 定期試験（90%） ☐ 実技試験（%） ☒ 小テスト（10%） ☐ レポート（%） ☐ 課題（%） ☐ 発表（%） ☐ その他（%）
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症 第15版（医学書院） 新体系看護学全書 別巻3 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害（メヂカルフレンド社）
参考書	なし
授業の留意点・備考	演習がある場合は髪は纏めておき、爪も切りそろえておく。教科書を中心に、パワーポイントも使用

科目名	成人看護学援助論Ⅳ						担当教員	上原真由美/吉浦理奈 武本史子/松尾祐子			
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		整形外科病棟、外来において看護の経験を活かし、運動機能障害を持つ患者の看護について講義・演習を行うことができる。感覚器病棟看護師、耳鼻クリニックでの実務経験を生かし、耳鼻咽喉科疾患を持つ患者の気持ちや日常について講義ができる。									
授 業 概 要		疾患の理解から検査、治療に伴う看護について学習する。運動器機能障害のある患者の看護について学習する。運動機能障害がもたらす影響と運動機能障害にはどのような障害があり、その障害がある人のアセスメントを行い、どのような看護が必要なのかを学ぶ。成人看護学援助論（感覚器）解剖生理学を基盤とし、感覚器障害の症状と疾患、その看護について学習する。									
到 達 目 標		1. 運動機能障害と日常生活への影響、治療に伴う看護を学び具体的なケア、支援について理解できる。 2. 運動機能障害の把握と看護を理解する。 聴覚・嗅覚・味覚・視覚の機能と障害を理解し、説明できる。感覚器の機能障害患者の特徴的な症状と看護のポイントが理解でき、説明できる。代表的な感覚器の疾患と患者の看護について理解でき、説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	運動機能障害と日常生活への影響			1) 良肢位を理解する 2) ADL、歩行状態の観察							
2	運動機能の把握と看護			3) 関節可動域・筋力の測定の理解 4) 起座困難・体位変換困難・歩行困難など日常生活活動困難・廃用性変化を理解する							
3	運動機能障害の検査・治療に伴う看護			1) 関節リウマチ患者の看護							
4	運動機能障害を持つ患者の看護			2) 椎間板ヘルニア患者の看護 3) 大腿骨骨折患者の看護							
5	運動機能障害と日常生活①			運動機能とその役割・障害について学ぶ。							
6	運動機能障害と日常生活②			運動機能障害がもたらす生命・生活への影響を学ぶ。							
7	運動機能障害の把握と看護①			起座困難・体位変換困難・歩行困難・把持困難の患者のアセスメントと看護を学ぶ。							
8	運動機能障害の把握と看護②			網羅性の低下・日常生活活動困難・運動機能に関する痛み・廃用性変化のある患者のアセスメントと看護を学ぶ。							
9	聴覚機能障害と患者の看護			聴覚機能障害の症状と治療・検査に伴う看護。疾患の看護について学ぶ。							
10	嗅覚・味覚機能障害と患者の看護			嗅覚・味覚障害の症状と治療・検査に伴う看護。疾患の看護について学ぶ。							
11	視覚機能障害と患者の看護			視覚機能障害の症状と治療・検査に伴う看護。疾患の看護について学ぶ。							
12	性・生殖機能障害と日常生活			・性・生殖機能とその役割(1)男性生殖器 (2)女性生殖器 ・性・生殖機能とその障害(1)性機能とその障害(2)生殖機能とその障害							
13	性・生殖機能障害の検査・治療に伴う看護			・性・生殖機能の検査・治療に伴う看護(男性) ・性・生殖機能の検査・治療に伴う看護(女性)							
14	性・生殖機能障害を持つ患者の看護			・前立腺癌患者の看護、子宮がん患者の看護、乳癌患者の看護							
15	試験			試験とまとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおくこと。解剖学的に運動器など骨・筋肉などを再度確認しておいてください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（90％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☒ その他（授業態度（10％）									

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合病院での急性期・慢性期・終末期のあらゆる健康のレベルの看護を活かし、それぞれの看護問題に応じた看護過程を講義や演習を行うことができる。									
授 業 概 要		周手術期にある患者の看護、慢性疾患を持ち、生涯にわたって疾患のコントロールが必要な患者の看護、終末期で生命が危機状態にある患者の看護の展開の方法を理解することができる。									
到 達 目 標		成人期にある対象の事例を用いて、成人期の特徴を理解し、健康のレベルに応じた看護過程の展開ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	慢性期の看護過程			生涯にわたって疾患のコントロールが必要な患者へ教育・指導についての看護過程を学ぶ。							
2	慢性期の看護過程			自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。							
3	慢性期の看護過程			グループワーク発表、追加説明							
4	慢性期の看護過程			自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。							
5	慢性期の看護過程			グループワーク発表、追加説明、まとめ							
6	急性期の看護過程			開腹術を受ける周手術期患者の術前・術直後・術後の看護についての看護過程を学ぶ。							
7	急性期の看護過程			自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。							
8	急性期の看護過程			グループワーク発表、追加説明							
9	急性期の看護過程			自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。							
10	急性期の看護過程			グループワーク発表、追加説明、まとめ							
11	終末期の看護過程			患者及び家族の苦痛の緩和〈全人的苦痛〉、身体的・心理的・社会的ニーズをふまえた看護の展開							
12	終末期の看護過程			自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。							
13	終末期の看護過程			グループワーク発表、追加説明							
14	終末期の看護過程			自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。							
15	終末期の看護過程			グループワーク発表、追加説明、まとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		基礎看護学技術Ⅴで学んだ、看護過程について復習をしておく 事例に関する病態生理を学習しておく									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☒ 課題（ 80 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		系統看護学講座 消化器（医学書院） 系統看護学講座 呼吸器（医学書院）									
参 考 書		高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護 事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門									
授業の留意点・備考		事例の疾患の事前学習を必ずしておく。 グループワークでは積極的に発言をし、他のメンバーの発言にも傾聴し活発なワークとする。 課題等の提出は期限厳守すること。期限が過ぎた場合は減点の対象となる。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病院および介護施設での勤務経験を活かし、少子高齢化時代の社会保障制度・介護保険制度の変革と高齢者の特性の理解と看護の役割について講義・演習を行うことができる									
授 業 概 要		この科目は老年看護の導入部分である。老年期はライフサイクルの最終ステージであり、人間的成熟・統合に向けての成長・発達する段階でもある。加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化により、健康問題の出現、人間関係・社会的役割・経済生活など様々な変化や喪失を体験する時期でもある。 少子高齢化社会の現状と法・制度について学習し老人保健法、介護保険法のもとに組み込まれる事業を理解し老年看護の活動の場について学習を深める。地域包括ケアシステムの中の関係職種との連携について理解する。									
到 達 目 標		・老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、様々な課題と看護の必要性を説明できる ・社会保障制度の動向や枠組み・医療介護保険制度の活用について説明できる ・老年看護活動の場の拡大とチーム活動、多職種連携の説明ができる ・地域包括ケアシステムでの看護活動について説明できる。 ・権利擁護の理念を学び、高齢者虐待や身体拘束の問題発生と予防するための看護の									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	老いの理解と老いを生きること			高齢者体験し老いることの疑似体験。加齢と老化の関係を考え、高齢者の全体像をイメージしてみる。							
2	老いの理解と老いを生きること			高齢者の発達課題を学び、老年期の生き方や課題を考える。							
3	老年期の発達課題			高齢者の発達理論を学び、スピードテストな側面と高齢者の生き方の支援について考える。							
4	老年期の発達課題			高齢者の発達理論を学び、スピードテストな側面と高齢者の生き方の支援について考える。							
5	超高齢社会と社会保障・統計的輪郭			日本の超高齢化率を知り、社会生活の変化（核家族化・疾病構・多死社会等）の現状を理解する。							
6	超高齢社会と社会保障・統計的輪郭			日本の超高齢化率を知り、社会生活の変化（核家族化・疾病構・多死社会等）の現状を理解する。							
7	長高齢社会における保健医療福祉の動向			高齢者にかかわる保健医療費システムの変遷を知る。新たな介護保険制度の整備、地域法覚ケアシステムの構築と看護の役割を学ぶ							
8	長高齢社会における保健医療福祉の動向			高齢者を支える多職種連携と看護活動							
9	高齢者の権利擁護			高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義							
10	高齢者の権利擁護			高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義を通して実例から現状の課題を考える							
11	高齢者の権利擁護・高齢者虐待			高齢者の権利擁護の学習、日常生活の中に差別的な行為がないか考えてみる 高齢者虐待の現状と特徴を知り、虐待防止に向けた支援を考えてみる							
12	高齢者の権利擁護・身体拘束・権利擁護制度			・身体拘束の現状や制度を知り、廃止に向け、看護の支援について考える ・事例をもとに権利擁護制度の種類と機能を知り、成年後見人制度の目的と活用方法事例を1つとしてを学ぶ							
13	老年看護の成り立ち			社会の変化とともになぜ老年看護学が成立したのか学ぶ。							
14	老年看護における理論			老年看護学の理論を活用した看護展開と老年看護の責務を理解する。							
15	試験			試験とまとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予定された教科書の項目を読んでおく。配布資料や前回の講義内容を復習してくる									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 （医学書院）									
参 考 書		新聞記事等									
授業の留意点・備考											

科目名	老年看護学援助論Ⅰ						担当教員	田中 克恵			
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療療養病棟及び介護療養病棟実務経験15年（うち介護療養病棟責任者2年）									
授 業 概 要		高齢者が健康的な日常生活を過ごし、その人らしい人生を送るための保健活動について学ぶ。高齢者のアセスメントの特徴、主な症状とその看護、回復過程の特徴、健康の段階に応じた看護、看護の継続性などについて学習する。									
到 達 目 標		老化による機能の低下及び様々な健康レベルの老年期の対象を理解し、高齢者のもつ健康あるいは生活上のリスクを最少にし、可能性をはかる援助を通して、その人の望む生き方の実現と安らかな死への援助を学ぶ。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	高齢者のヘルスケアアセスメント			加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について学ぶ							
2	身体に加齢変化とアセスメント（1）			グループワーク「身体に加齢変化について」考える							
3	身体に加齢変化とアセスメント（2）			身体に加齢変化について理解を深める							
4	高齢者の生活機能を整える看護（1）			日常生活を支える基本活動・食事・排泄・清潔について学ぶ							
5	高齢者の生活機能を整える看護（2）			生活リズム・コミュニケーション・セクシャリティ・社会参加について学ぶ							
6	高齢者の症徴と看護			様々な健康状態に応じた高齢者の看護を理解する							
7	身体疾患のある高齢者の看護（1）			脳卒中・糖尿病・COPDについて学ぶ							
8	身体疾患のある高齢者の看護（2）			がん・パーキンソン病・インフルエンザ・肺炎・骨粗鬆症・骨折について学ぶ							
9	認知機能障害のある高齢者の看護（1）			うつ（病）・せん妄について学ぶ							
10	認知機能障害のある高齢者の看護（2）			認知症の分類・中核症状とBPSD　・看護について理解する							
11	治療を必要とする高齢者の看護（1）			検査・薬物療法・手術について学ぶ							
12	治療を必要とする高齢者の看護（2）			急性期・慢性期の看護　リハビリテーションについて学ぶ							
13	治療を必要とする高齢者の看護（3）			入退院　保健医療福祉施設について理解する							
14	エンドオブライフケア 生活・療養の場における看護			多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する							
15	高齢者のリスクマネジメント			高齢者の特徴的なリスクを理解する							
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		講義に関連した解剖生理・疾病や経過別看護、援助技術について復習しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題 （ 20 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		系統看護学講座 専門20 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 年看護 病態・疾患論									
参 考 書		生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 医学書院									
授業の留意点・備考											

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30/45	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		多領域の臨床や教育経験を活かし、高齢者の特徴・精神的・社会的問題を捉えた中で、看護師の役割や制度について、講義・演習が出来る。									
授 業 概 要		健康障害をもつ高齢者を理解し、健康障害及び健康の段階及び対象に応じた看護を、事例展開を通して学ぶ。									
到 達 目 標		1. 健康障害をもつ高齢者の看護を理解し、老年看護に必要な知識・技術を統合できる。 2. 高齢者特有の看護問題の解決のために各段階の思考のステップの考え方を理解できる。 3. 高齢者の自立やQOLを高めるような援助方法について理解できる。 4. 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴及び各職種との連携について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	1) 老年看護学援助論Ⅱの授業計画 2) 多発性脳梗塞の高齢者の事例紹介			30時間の講義の説明 事例1の目標 ①脳梗塞の病態の理解②高齢者の適応能力の理解③二次的身体損傷を負う事 の理解④対象のプライドややる気を大切にする⑤個性⑥高齢者がこれまで暮ら してきた地域でその人らしく生活できる							
2	多発性脳梗塞の高齢者の事例・疾患が理解できる。			個人学習及びグループワーク							
3	No2が記載できる			個人学習及びグループワーク							
4	No2が記載できる			個人学習及びグループワーク							
5	関連図に事例の全体像が記載できる			個人学習及びグループワーク							
6	診断リストをあげることができる。			個人学習及びグループワーク							
7	看護計画を1項目立案できる。			個人学習及びグループワーク							
8	1) 多発性脳梗塞の高齢者の事例まとめ 2) 大腿骨転子部骨折の高齢者の事例紹介			事例1のまとめ ①脳梗塞の病態の理解②高齢者の適応能力の理解③二次的身体損傷を負う事 の理解④対象のプライドややる気を大切にする⑤個性⑥高齢者がこれまで暮ら してきた地域でその人らしく生活できる 事例2の目標 ①大腿骨頸部骨折の病態の理解②高齢者骨折による安静及び治療・手術による 影響（深部静脈血栓・腓骨神経麻痺・術後合併症・術後せん妄）③薬物療法 （ヘパリン代替療法）・高血圧や糖尿病と手術との影響について理解する。 ④退院後の生活について							
9	No2が記載できる			個人学習及びグループワーク							
10	No2が記載できる			個人学習及びグループワーク							
11	関連図に事例の全体像が記載できる			個人学習及びグループワーク							
12	関連図に事例の全体像が記載できる			個人学習及びグループワーク							
13	診断リストをあげることができる。			個人学習及びグループワーク							
14	看護計画を1項目立案できる。			個人学習及びグループワークと事例2のまとめ							
15	終講時テスト及びまとめ			2事例に関する内容の理解の確認のテスト 講義のまとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		多発性脳梗塞及び大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折の2事例に関する解剖生理・病態生理・看護につい て、レポートのまとめる。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 50 % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☒ 課題（ 50 % ） ☐ 発表（ % ） ☐ その他（ % ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門20 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論									
参 考 書		生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 医学書院									
授業の留意点・備考		授業中だけでは、理解できないので事前学習・授業後の修正を必ず行う。									

科目名	老年看護学援助論Ⅱ						担当教員	山本 駒貴			
学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	神経難病センターでの経験を活かして、主にALS、パーキンソン病、脊髄小脳変性症の患者の看護について実際に病棟で行っている患者教育やACPを含め講義を行うことができる。										
授業概要	脳神経疾患看護について身体面だけでなく心理面、社会面から捉えられるよう、実際の事例から患者のみならず家族、周りをとりまく環境や支援する多職種の役割・機能について学習する。										
到達目標	1、脳神経疾患患者の特徴が理解できる。 2、脳神経疾患の症状に応じた看護援助について理解できる。										
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	脳神経疾患患者の特性と看護の視点					脳神経疾患患者の身体的・心理的・社会的特徴と急性期～慢性期の看護のポイント					
2	脳神経疾患の主な特徴とケア					神経症状と看護の視点					
3	主な脳神経疾患患者の看護①					脳血管障害の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点					
4	主な脳神経疾患患者の看護②					パーキンソン病の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点					
5	主な脳神経疾患患者の看護③					ALSの病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点					
6	主な脳神経疾患患者の看護④					認知症の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点					
7	主な脳神経疾患患者の看護⑤					その他神経難病の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点					
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容	教科書、配布するスライドで復習する。										
成績評価	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）										
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 第5版 （医学書院）										
参考書	授業の中で紹介する。										
授業の留意点・備考	不明な点については積極的に質問してください。										

科目名		小児看護学概論					担当教員		矢次 多美子			
学科	看護学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ		教育内容		小児看護学					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			臨床での小児看護の経験を活かし、小児看護に必要な成長発達や小児を取り巻く社会を理解するため講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要			小児看護の対象である小児と家族の特性を理解し、小児看護の概念、目的、役割を理解する。子どもの成長・発達について理解し、子どもを取り巻く環境と人権、小児看護の役割が理解できるよう、具体的な、イメージをグループワークや発見学習を行いながら高める。									
到 達 目 標			「子どもとは」について思考し、述べることができる。 子ども取り巻く社会について理解し、子どもの人権や課題について述べることができる。 小児各期の成長・発達及び生活（栄養・排泄・睡眠・清潔・遊び・安全）に応じた看護について述べることができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				「子どもとは」について・自己・他者の子ども観について考える							
2	現代社会における小児の緒問題				人口構造・乳児死亡率・合計特殊出生率、母子保健・児童福祉法等小児をめぐる法律と政策小児をめぐる法律と政策について演習（検索）し理解する							
3	児童虐待を考えよう				児童虐待について調べ、その特徴・原因・誘因及び対策についてグループで調べ考えることができる。							
4	児童虐待についてディベートしよう				児童虐待について、ディベートすることによって、子どもの社会問題を身近に感じ自己の出来ることを考え述べることができる							
5	成長発達の概念や子どもの健康状態を理解する				成長・発達の概念と子どもの健康状態の理解に必要な知識を理解する。							
6	新生児（期）の特徴と養育及び看護を知る				新生児の形態的・生理的理解をし、必要な養育および看護を知る。							
7	乳児（期）の特徴と養護及び看護を知る				乳児の形態的・認知・情緒・社会的特徴を理解することができる。							
8	子どもの栄養について知ろう				子どもの栄養（特に離乳食・幼児食）の重要性について理解する。							
9	幼児（期）の特徴と養護及び看護を知る				幼児の形態的・認知・情緒・社会的特徴を理解することができる。							
10	幼児の基本的生活習慣の獲得を考えよう				幼児期に必要な基本的生活習慣の獲得について理解し保育園実習を考える							
11	乳幼児の健康診査と保健指導				母子手帳等を活用し、小児保健（健診・予防接種）について理解する							
12	小児の事故と安全教育について知る				小児の事故の特徴を知り、事故防止に活かす視点をもつことができる。							
13	学童（期）の特徴や生活習慣と健康				学童（期）の形態的、精神、社会的特徴を自分達の時代を思い出しながら理解しよう							
14	思春期・青年期の特徴と健康問題				思春期・青年期にある健康問題を身近に感じ必要な援助を考える							
15	まとめ				小児看護学概論の総復習							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容												
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30 %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 10 %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			系統看護学講座 専門分野Ⅱ「小児看護学概論/小児臨床看護総論」 第14版：医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「小児看護学各論」 第14版：医学書院									
参 考 書												
授業の留意点・備考			少子化の現代、子どもに興味・関心を持ち小児各期の成長発達をイメージしながら理解すること。又、自分の母子手帳等を利用して保健・医療・福祉の理解をする。積極的に検索課題を行いグループ活動・発表を共有し視野を広めたり深められるようにすること。									

科目名	小児看護学援助論Ⅰ	担当教員	光永隆丸/山田奈保美
-----	-----------	------	------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	小児看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小児科臨床医の経験を活かして、小児期の疾患について講義をおこなうことができる。小児科病棟・外来で小児科看護に携わった経験を生かし、小児とその家族への看護について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		小児期の基本的な疾患について知り、理解することができるようにする。小児の疾病の経過に応じた小児と家族の看護を理解し、健康障害をもつ小児各期の対象の特徴と援助のあり方を学習する。									
到 達 目 標		小児の基本的疾患について理解を深める。疾患を理解し看護に生かせる。健康障害を持つ小児とその家族への看護を理解する。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	基本的小児疾患について理解する①	1) 先天異常、染色体異常
2	基本的小児疾患について理解する②	1) アレルギー性疾患
3	基本的小児疾患について理解する③	1) 感染症 2) 呼吸器感染症
4	基本的小児疾患について理解する④	1) 循環器疾患 2) 血液疾患
5	基本的小児疾患について理解する⑤	1) 代謝性疾患 2) 内分泌疾患
6	基本的小児疾患について理解する⑥	1) 悪性疾患 2) 腎、泌尿器、生殖器 2) 神経疾患
7	基本的小児疾患について理解する⑦	1) 新生児 2) 消化器疾患
8	基本的小児疾患について理解する⑧	1) 運動器疾患 2) 皮膚疾患
9	健康を障害された小児の看護	健康障害に対する小児の反応や小児・家族に及ぼす影響と看護を学ぶ
10	外来、入院における小児の看護	外来における小児・家族のの特徴、感染症対応などを理解し、看護を学ぶ。入院が小児・家族に与える影響、尿糖の安全管理などを理解し、看護を学ぶ。
11	在宅療養・災害時の小児の看護	在宅療養が必要な小児の特徴、家族に与える影響を理解する。災害時に必要な看護を理解する。
12	急性期・慢性期にある小児と家族への看護	急性期に起こりやすい症状と看護を学ぶ。慢性期に必要な指導や看護を成長発達段階と照らし合わせて理解する。
13	手術を受ける小児と家族への看護	手術を受ける子どもへのプレパレーション方法や家族への看護を学ぶ
14	終末期にある子どもと家族への看護	終末期にみられる症状や、子ども・家族への心理的影響を理解し、看護を学ぶ。
15	試験	試験とまとめ

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	教科書を読んでおくこと。
成績評価	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 第14版 （医学書院）
参考書	
授業の留意点・備考	

科目名		小児看護学援助論Ⅱ						担当教員		矢次 多美子	
学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	小児看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での小児看護の経験を活かし、小児看護に必要な成長発達や病態アセスメントを理解するため講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		様々な健康障害をもつ子どもとその家族への看護過程の展開を行い、小児看護実践能力を習得する。 又、小児看護に必要な看護技術を習得する。									
到 達 目 標		各看護学と関連を深め、小児看護学援助論Ⅰで学んだ小児疾患・看護（経過別・外来等）を活かし対象に応じた知識・技術・態度の統合ができる。小児看護技術の特徴と方法の基本が理解できる。 既習科目を活用し、事例のアセスメント～目標・看護計画・実施が校内でできる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	障害のある子どもと家族の看護			障害のとらえかた・障害の受容過程と家族への看護・重症心身障害児（者）の特徴を学ぶ。							
2	在宅療養中の子どもと家族の援助			在宅看護論を想起し在宅での子どもと家族の特徴（レスパイト入院）を知る。							
3	新生児の看護（ハイリスク新生児と看護）			NICU・保育器などを知り、低出生体重児の看護がイメージできる							
4	災害時の子どもと家族の看護			子どもの災害、災害時の子どもの言動・反応と対応について学び考える。							
5	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護			代表的な小児循環器疾患看護について看護の特徴を事例を通して知る。							
6	腎疾患をもつ子どもと家族の看護			ネフローゼの子どもの看護を事例を通して理解する。							
7	身体的アセスメント （各器官の観察のポイント）（1）			子どもの成長・発達の評価（計測）・一般状態の観察方法を演習する							
8	身体的アセスメント （各器官の観察のポイント）（2）			子どものバイタルサイン測定とアセスメントを演習する。							
9	検査・処置を受ける子どもの看護			子どもの与薬（輸液等）・採血・採尿・穿刺等の演習し学ぶ							
10	健康障害時の生活援助と症状緩和・処置			経管栄養・浣腸・吸引・酸素吸入等の基本を演習し学ぶ。							
11	活動制限が必要な子どもと家族の看護			子どもの入院環境をサークルベッドの演習から学び事故防止を考える							
12	救急救命処置が必要な子どもと家族			小児の一次救命処置（PBLs）と異物除去方法を演習し学ぶ							
13	前半評価テスト			前半の授業理解度と今後のオリエンテーション							
14	成長・発達段階を考えたアセスメント（1）			小児看護過程に必要なゴードンのアセスメントガイドを理解する							
15	成長・発達段階を考えたアセスメント（2）			成長・発達アセスメントの方法（栄養・代謝）を演習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	成長・発達段階を考えたアセスメント（３）	排泄・活動－運動・睡眠・休息パターンをアセスメント演習する。
17	成長・発達段階を考えたアセスメント（４）	認知-知覚パターン・自己知覚-自己概念パターンをアセスメント演習する。
18	成長・発達段階を考えたアセスメント（５）	役割・セクシュアリティ・生殖・ストレス・価値パターンを演習する。
19	事例；「脳性麻痺・てんかん・低酸素血症患児」の看護過程（１）	事例のアセスメントをグループワークにて発表する。
20	事例；「脳性麻痺・てんかん・低酸素血症患児」の看護過程（２）	事例のアセスメントをグループワークにて発表する。
21	事例；「脳性麻痺・てんかん・低酸素血症患児」の看護過程（３）	事例の関連図を作成、発表し考えることができる。
22	事例；「脳性麻痺・てんかん・低酸素血症患児」の看護過程（４）	事例の看護計画をアセスメントから考えることができる。
23	最終評価	授業後半の復習と事例の看護過程提出
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		小児看護技術の事前学習レポート必要。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 30 %） ☒ 発表（ 20 %） ☐ その他（ ）
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ「小児看護学概論/小児臨床看護総論」 第14版：医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「小児看護学各論」 第14版：医学書院
参 考 書		「写真でわかる小児看護技術アドバンス」（インターメディカ）
授業の留意点・備考		授業資料が多く、整理をし活用できるようにする事。技術演習も多く、臨地実習への具体的準備として必修であり欠課しない事。課題提出・レポート・発表等は評価対象となるので自主的に受講する事。

科目名	母性看護学概論	担当教員	加治 美由起
-----	---------	------	--------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		助産師として病院や地域で母子支援に携わってきた経験を活かし、いのちの尊重や女性の健康と権利について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		リプロダクティブ・ヘルス/ライツとウィメンズヘルスを軸に、女性のライフサイクル各期の性と生殖および健康問題について学習する。母性および女性のおかれた立場を社会的、文化的、歴史的背景からも学習する。									
到 達 目 標		母性の概念及び母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題について学び、母性看護に必要な知識を得る。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	母性看護の概念	母性の概念を通して、母性看護の対象を理解する
2	母性看護の概念	母親になる過程に関して、身体的・心理的・社会的特性について学ぶ
3	母性看護の歴史の変遷と現状	母子保健統計に関する数値より、歴史的社会的変化と関連させて現状を学ぶ
4	母子保健を守る法律と施策	安全な妊娠・分娩・子育てを守るための母子保健に関する法律や施策を学ぶ
5	地域の母子支援活動	地域の母子支援活動より、社会的な母性看護の現状を知る
6	母子看護における法的倫理的課題	母性看護における法的倫理的課題と責任を理解して行動指針を確認する
7	母性看護の対象理解	女性の生殖器の仕組みと働き、人の発生について学ぶ
8	思春期の身体的・心理的・社会的特徴	思春期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、健康問題と看護について学ぶ
9	成熟期の身体的・心理的・社会的特徴	成熟期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、健康問題と看護について学ぶ
10	更年期の身体的・心理的・社会的特徴	更年期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、健康問題と看護について学ぶ
11	リプロダクティブ・ヘルスケア	家族計画・受胎調節法・人工妊娠中絶・性感染症について学ぶ
12	リプロダクティブ・ヘルスケア	児童虐待・DVと地域支援について学ぶ
13	生命倫理	死産・障害をもった児の親の心理を感じ、看護者として行動指針を確認する
14	まとめ 演習問題を解く	母性看護学概論の演習問題をとき、授業をふりかえり要点を学ぶ
15	試験	筆記試験とまとめ

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	日頃から、母性に関する事や女性の健康に関する事について興味関心をもつこと。講義内容と関連づけて学べるように教科書は事前事後学習で活用し読んでおく。
成績評価	☒ 定期試験（ 90 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 10 ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教科書	毛糸看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 第13版 （医学書院）
参考書	
授業の留意点・備考	自己の価値観も大切にしつつ、母性看護について考える時間である。

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	産婦人科医としての経験を活かし、妊娠・分娩・産褥各期について講義を行うことができる。臨床助産師5年、母性看護学担当教員16年、妊娠SOS電話相談員5年、自宅分娩サポート15年の経験を活かし、各期の看護について講義を行うことができる。										
授 業 概 要	妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的变化と特徴を理解し、母子及び家族への適切な看護について学ぶ。妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的变化と特徴を理解し、母子及び家族への適切な看護について学ぶとともに、自分自身のセクシュアリティとして母性・父性について考えを深める。										
到 達 目 標	1. 妊娠・分娩・産褥の正常経過と異常経過、新生児の生理についての理解を深める。 2. 妊娠・分娩・産褥の看護、新生児の看護について理解する。 3. 正常な妊娠および出産を、疾患ではなく人間の生理的な営みとして、対象理解を深める。 4. 対象のセルフケア能力を高める看護について学ぶ										
授 業 計 画											
回	テーマ	授 業 内 容									
1	生殖生理	(1) ヒトの発生と遺伝的要素 (2) 女性周期と生殖機能のメカニズム (3) 妊娠の定期・成立 (4) 胎盤の形成 (5) 生殖をめぐる倫理									
2	妊娠の経過	(1) 胎児の発育と生理 (2) 妊娠の徴候と検査 (3) 胎児と胎盤機能の検査									
3	分娩経過と産婦の理解①	(1) ハイリスク妊娠 (2) PIH合併妊娠 (3) 妊娠悪阻 (4) 流産・早産 (5) 妊娠合併症 (6) 子宮外妊娠 (7) 胎児および付属物の異常									
4	分娩経過と産婦の理解②	(1) 分娩各期の生理 (2) 産婦の健康診査									
5	異常分娩①	(1) 娩出力の異常 (2) 産道の異常 (3) 胎児・付属物の異常									
6	異常分娩②	(4) 分娩時損傷 (5) 胎児仮死の管理 (6) 低出生体重児 (7) 先天異常、障害をもつ新生児 (8) 死産									
7	産科手術	(1) 膣式産科手術 (2) 帝王切開術									
8	妊娠期の看護の目標	学生自身の母子健康手帳を教材にし、公的な母性保健の位置づけを理解する。妊娠期・分娩期・産褥期のおおまかな流れを理解する。									
9	妊娠各期の看護と保健指導	妊娠中の生理的变化・マイナートラブルについて。セルフケアの方法について。									
10	分娩の機序について	正常な分娩の機序と進行について。									
11	分娩各期の看護の目標と実践	分娩各期の特徴をふまえた看護の実践について。									
12	褥婦の身体的変化と心理的变化	産褥期の退行性変化と進行性変化について。観察点と情報収集のポイント。									
13	産褥期の看護の目標と褥婦の理解	母子の愛着形成に必要な看護について。母乳哺育について。									
14	新生児期の看護	新生児期の観察・情報収集のポイント。									
15	試験	試験とまとめ									
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおくこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 20 ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 第13版（医学書院）									
参 考 書		1. 国民衛生の動向（厚生統計協会）2. 病気がみえるシリーズ vol.10 産科（メディックデザイン）3. 資料									
授業の留意点・備考											

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	担当教員	甲斐村美智子/池田 睦子
-----	-----------	------	--------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	助産師として妊産褥婦・新生児の看護に携わった経験を活かし、母性看護の実践に必要な技術である対象を理解するためのアセスメントおよび看護の方向性、さらには看護実践について講義・演習を行うことができる。										
-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授 業 概 要	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常時のアセスメント能力を身につける基本を学び、母性看護技術の習得ができる。母性看護における看護過程の展開方法（以下の①～④）について学習する。 ①対象を身体的・心理的・社会的側面から理解するために必要な情報②科学的根拠を基にした情報のアセスメント③看護問題の推論および看護の方向性④看護実践の評価										
---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

到 達 目 標	1. 妊娠・分娩・産褥の異常について理解する。2. 妊娠・分娩・産褥異常時の看護について理解する。 3. 母性看護に必要な看護技術を習得できる。4. 事例を用いて母性看護過程の展開ができる。 ①母性看護における看護過程の展開方法について理解できる。 ②母性看護の対象者を把握する方法である情報収集・アセスメントの特性について、理解でき										
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	異常妊娠時の看護（１）	1) 悪阻 2) 妊娠高血圧症候群 3) 妊娠貧血 4) 多胎妊娠 5) 流早産の妊婦の看護を学ぶ
2	異常妊娠時の看護（２）	6) ハイリスク妊婦の看護を学ぶ
3	異常分娩時の看護（１）	1) 娩出力の異常時の看護 2) 産道の異常と看護を学ぶ
4	異常分娩時の看護（２）	3) 胎位・回旋の異常と看護 4) 胎児付属物の異常と看護を学ぶ
5	異常分娩時の看護（３）	5) 帝王切開時の看護を学ぶ
6	異常産褥時の看護	1) 子宮復古不全 2) 産褥熱の妊婦 3) 乳房・乳頭の異常 4) 産褥期精神障害の看護を学ぶ
7	新生児異常と看護	1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 新生児黄疸を学ぶ
8	母性看護技術（１）	1. 妊婦健康診査の目的 2. 子宮底・腹囲の測定 3. レオポルド触診法を学ぶ
9	母性看護技術（２）	4. 胎児心音聴取法を学ぶ
10	母性看護技術（３）	5. 妊娠期の看護（妊婦体験・妊婦体操）を学ぶ
11	母性看護技術（４）	6. 分娩期の看護（産痛緩和法）を学ぶ
12	母性看護技術（５）	7. 産褥期の看護を学ぶ（１）
13	母性看護技術（６）	7. 産褥期の看護を学ぶ（２）
14	母性看護技術（７）	妊娠・分娩・産褥期の看護技術の実践を演習する
15	母性看護技術（８）	8. 新生児の観察を学ぶ

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	母性看護技術（9）	9. 新生児のケアを学ぶ
17	母性看護技術（10）	新生児のケア（おむつの当て方・沐浴・臍処置）の実際を演習する
18	ガイダンス 母性看護における看護過程の展開方法について	ウェルネス看護診断 褥婦・新生児のアセスメント項目と必要な情報 事例紹介
19	褥婦のアセスメント①	事例を基にした褥婦のアセスメント
20	褥婦のアセスメント②と看護問題の推論 新生児のアセスメント①	事例を基にした褥婦のアセスメントと褥婦の看護問題の推論 事例を基にした新生児のアセスメント
21	新生児のアセスメント②と看護問題の推論	事例を基にした新生児のアセスメントと新生児の看護問題の推論 看護問題の優先順位
22	関連図	グループワークにて作成した関連図の発表 関連図の作成方法について
23	看護計画および評価	看護計画および評価について
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		既習の知識および教科書を用いて、事例である褥婦・新生児のアセスメントと看護問題の推論（課題） グループワークによる関連図の作成（課題）
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教 科 書		系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
参 考 書		病気が見える10産科 第4版 メディックメディア
授業の留意点・備考		対象を理解するには内容量が多く、講義だけでは困難です。このため、課題は必須となります。

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科、外科病棟に入院や疾患に伴うこころの問題を抱える患者や、精神障害を持ち一般病院に入院となった患者の看護経験をもとに講義・演習ができる。									
授 業 概 要		精神看護学における看護の対象は精神に障害のある人のみならず、心の問題を抱えるあらゆる人々が対象であることを理解する。小児から老年までのライフサイクルを考慮しながら、人々の健康を保持・増進するために果たすべき看護の役割について学習する。									
到 達 目 標		精神看護学の目的・対象・機能について理解できる。 こころの健康と発達段階について理解し、こころの健康について考えることができる。 精神保健看護の歴史の変遷を学び、人権や倫理について考えることができる。 精神看護福祉法の背景と経緯について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	精神看護学で学ぶこと①			現代社会における精神保健・看護のニーズの高まりと精神科医療の現状を知る。							
2	精神看護学で学ぶこと②			精神看護学の基本的な考え方や精神看護を実践する者としての視点や態度を学ぶ。							
3	精神保健の考え方①			精神の健康、障害とは何かその定義やとらえ方について学ぶ							
4	精神保健の考え方②			ストレスおよび精神の健康における危機とは何かを理解し、精神障害の予防に必要な力や支援、回復を支える考え方について学ぶ。							
5	人間の心のはたらきとパーソナリティ①			人の心の諸活動としくみについて学ぶ。							
6	人間の心のはたらきとパーソナリティ②			人格の発達に関する代表的な理論を学ぶ。							
7	関係の中の人間①			家族の関係と役割について理解する。							
8	関係の中の人間②			集団と個人の関係、グループワークについて理解する。							
9	関係の中の人間③（演習）			実際にグループワークを体験する。							
10	精神科で出会う人々①			対象にとって「精神を病む」体験を理解し、精神看護における「症状のとらえ方」について学ぶ。							
11	精神科で出会う人々②			精神障害の診断と分類、精神機能の障害であるさまざまな症状を学ぶ。。							
12	精神科での治療①			精神科における治療（薬物・電気けいれん療法）について学ぶ。							
13	精神科での治療②			精神科における治療（精神療法・環境療法・社会療法）について学ぶ。							
14	社会の中の精神障害①			精神科医療と看護の歴史、について学ぶことができる。							
15	社会の中の精神障害②			精神障害者にかかわる法制度についてはどのようなものがあるか理解する。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書と配布資料の確認をして授業に出席すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第5版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学② 第5版（医学書院）									
参 考 書		中範囲理論入門 第2版（日総研）									
授業の留意点・備考		精神看護学を学ぶ上で基礎となる科目であるため、理解できるように積極的に授業に参加すること。									

科目名	精神看護学援助論Ⅰ							担当教員	杉本啓介/那須広輝		
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神疾患の治療や研究に携わった経験を講義に活用する。一般精神科で、患者およびその家族と関わってきた経験を活かし、患者の社会復帰に向けた看護師の役割について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		精神疾患について基本的な知識を概説する。患者との相互関係を通して援助関係を確立し、発展させていく能力を身につけることは、看護師にとって重要な課題である。患者が抱える様々な症状・状態について基本的対応を学習する。									
到 達 目 標		精神疾患の基礎と主な疾患の病態を理解し看護への展開に活かす。 1. 精神科でみられる主な症状とその介入技術について説明できる。 2. 精神疾患をもつ患者の回復に向けた援助方法について説明できる。 3. 精神科における多職種との連携や、地域生活支援における看護師の役割について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	精神疾患各論①				(F7～9) 知的障害・発達障害						
2	精神疾患各論②				(F3・F0) 気分障害・認知症						
3	精神疾患各論③				(F1・F5) 嗜癮について						
4	精神疾患各論④				(F2) 統合失調症圏						
5	精神疾患各論⑤				(F4) 神経症・ストレス関連障害						
6	精神疾患各論⑥				(F4-F5) 精神及び行動の障害						
7	精神疾患各論⑦				(F6) パーソナリティ障害						
8	精神科でみられる主な症状の理解と看護①				幻覚、妄想、せん妄について、症状を理解し、援助方法について学ぶ。						
9	精神科でみられる主な症状の理解と看護②				不安状態、意欲減退、抑うつ状態について症状を理解し、援助方法について学ぶ。						
10	看護の役割：治療的環境、入院治療の意味、身体ケア				入院治療の意味を理解し、対象の安全を守ることについて学ぶ。食事、睡眠、活動（リハビリテーションを含む）の援助について学ぶ。						
11	統合失調症、妄想性障害をもつ対象の看護				病態および治療について理解し、援助方法について学ぶ						
12	精神科病棟の環境とリカバリーメント				一般病棟との構造上の違いや事故事例について学ぶ。						
13	精神科における身体合併症 行動制限を受けている対象の看護				起こりやすい身体合併症について学ぶ。 精神科における行動制限、倫理について学ぶ。						
14	精神障害をもつ対象の地域生活支援の実践				長期入院患者の地域生活移行や訪問看護の目的について学ぶ。						
15	試験				試験とまとめ						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。各テーマにある用語について把握しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神（1）精神看護の基礎/精神（2）精神看護の展開（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問すること。回答できない場合、次回に回答します。									

科目名	精神看護学援助論Ⅱ							担当教員	伊藤寿浩/藤井美香/知念英美		
学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期から回復期までの精神疾患を有する患者と関わった経験を活かし、精神保健福祉法に基づいた精神看護の在り方について講義などを行なうことができる。精神科病棟勤務の経験を活かし、精神科の看護展開における看護理論を用いて、看護過程の展開の講義・演習ができる。									
授業概要		精神看護学概論で学んだ精神保健についての考えを踏まえ、精神科看護の援助の基本を学ぶ事ができる。・精神看護学の展開において、セルフケアに関する看護理論のオレムアンダーウッドモデルを用いて看護過程の展開ができる。・診断・状態に応じた看護ケア（セルフケアへの支援）ができる。									
到達目標		精神科の歴史について説明できる。精神保健福祉法における入院形態の種類や行動制限について理解し、尚且つ精神看護としての役割等について説明できる。急性期、回復期、慢性期の患者の特徴を理解した上で看護過程を展開し、評価することができる。・精神看護学の展開において、セルフケアに関する看護理論のオレムアンダーウッドモデルを用いて看護過程の展開ができる。・診断・状態に応じた看護ケア（セルフケアへの支援）ができる。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	精神科の歴史				国の政策に伴う精神医療の歴史について学ぶ						
2	精神看護援助の基本と技術				日常生活の援助方法について学ぶ						
3	精神保健福祉法				安全管理における精神化特有の行動制限と看護について学ぶ						
4	精神疾患の理解と治療				対象の病的特性について理解し、疾患や症状別に用いられる治療法や看護を学ぶ。（講義・DVD）						
5	精神臨床の考え方				急性期から回復期、慢性期の看護及びその各期に用いられる技法について学ぶ。（講義・演習など）						
6	プロセスレコード				事例を用いて自己理解、対象理解を深める。（講義・演習など）						
7	看護過程①				統合失調症の事例から必要な情報を抽出する。（講義・演習など）						
8	看護過程②				精神状態・セルフケアの査定について学ぶ。（講義・演習など）						
9	看護過程の展開①				事例から得た情報をもとに、精神状態・セルフケアの査定をする。（グループワーク）						
10	看護過程の展開②				関連図から看護上の問題を抽出し、対象の目標を考える。（グループワーク）						
11	看護過程の展開③				グループで展開した看護過程を発表する①（グループワーク）						
12	看護過程の展開④				グループで展開した看護過程を発表する②（グループワーク）						
13	統合失調症と発達障害				統合失調症、発達障害の症状及び治療・看護について学ぶ。						
14	児童思春期医療				対象の特性理解と治療・看護について学ぶ。（講義・DVD）						
15	まとめ				講義のまとめ						

授業計画		
回	テーマ	授業内容

16	精神看護に関する看護理論 オレムアンダーウッドモデル	精神科病院のイメージをつかむ（ビデオをみてグループワーク） 精神看護に関する看護理論について
17	精神症状の査定と精神症状の捉え方	メンタル ステイタス エグザミネーション（精神状態の査定）の理解ができるように、各項目に沿って説明する。
18	普遍的セルフケア要件の把握と査定	セルフケアに関する情報の聞き取りと実際の記載方法の講義および演習をおこなう。
19	統合失調症患者への看護展開 1	統合失調症の事例をオレムアンダーウッドモデルを用いて、看護過程の展開をおこなう。情報収集・アセスメントおよびセルフケア上の問題の明確化ができるよう演習し発表する。
20	統合失調症患者への看護展開 2	セルフケア上の問題から長期目標・短期目標および看護計画の立案ができるよう演習し発表する。
21	気分障害患者への看護展開 1	気分障害患者の事例をオレムアンダーウッドモデルを用いて、看護過程の展開をおこなう。情報収集・アセスメントおよびセルフケア上の問題の明確化ができるよう演習し発表する。
22	気分障害患者への看護展開 2	セルフケア上の問題から長期目標・短期目標および看護計画の立案ができるよう演習し発表する。
23	試験	試験とまとめ
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおくこと。
成績評価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 10 %） ☒ その他（ポスターボード 10% ）
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1）精神看護の基礎 第5版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2）精神看護の展開 第5版（医学書院）
参考書		適宜、資料配布 ・精神看護学Ⅰ精神保健学/精神看護学Ⅱ精神臨床看護学（ヌーベルエディタ）
授業の留意点・備考		グループワークのときには積極的に意見を出し、発言していくこと。より効果的な精神科看護実ができるように、実習の心構えや患者さんとのコミュニケーション方法の基本などを取り入れながら、上記授業をおこなう。また、質問コーナーを入れながら、今、ここでの思いが発言できるように心がけ授業をおこなう。

科目名		在宅看護論概論					担当教員		松尾 祐子		
学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	統合分野	教育内容	在宅看護論						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院及び在宅領域で10年以上の実務経験を活かし、在宅看護全般について講義を行うことができる。									
授業概要		地域包括ケアシステムを理解し、在宅看護の必要性、目的、対象、役割について学ぶ。									
到達目標		在宅看護の目的と特徴がわかる。在宅看護の対象者について理解できる。在宅療養の支援が理解できる。在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について理解できる。									
授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	在宅看護の目的と特徴					在宅の目的や特徴を学ぶ。					
2	在宅看護の対象者（特徴・家族・住まい・地域）					在宅看護における対象となるもの全てを学ぶ。					
3	在宅療養の支援（在宅看護の基本）					在宅看護の提供方法、療養の場の移行、在宅看護の基本となるものを学ぶ。					
4	在宅看護にかかわる法令・制度①					在宅看護にかかわる法令・制度の介護保険・医療保険について学ぶ。					
5	在宅看護にかかわる法令・制度②					在宅看護にかかわる法令・制度の障害者総合支援法・難病法について学ぶ。					
6	在宅看護にかかわる法令・制度③					在宅看護にかかわる法令・制度の医療介護総合確保推進法・医療法・公費負担医療について学ぶ。					
7	介護保険制度①					介護保険制度の対象者・手続きなどについて学ぶ。					
8	介護保険制度②					介護保険制度の給付対象となるサービス・利用料について学ぶ。					
9	訪問看護の制度①					訪問看護の制度において利用者と訪問回数について学ぶ。					
10	訪問看護の制度②					訪問看護の制度においてステーションに関する規程について学ぶ。					
11	訪問看護の制度③					訪問看護の制度において訪問看護利用までの手順や費用について学ぶ。					
12	訪問看護サービスの提供					訪問看護サービスの提供・チームケア・管理・運営・質の保証・記録の意義と目的について学ぶ。					
13	ケアマネジメントと社会資源の活用					ケアマネジメントの要素・機能・過程と社会資源の活用について学ぶ。					
14	地域における多職種連携					地域における多職種連携の必要性、地域の社会資源について学ぶ。					
15	事例を通して法令・制度・社会資源・連携についてグループワーク					事例を通して法令・制度・社会資源・連携についてグループワークの中でケアシステムを記入し発表ができる。					
準備学習（予習復習）の具体的な内容		1年次の老年看護学概論における介護保険法について復習しておく。									
成績評価		☒ 定期試験（80％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（10％） ☐ レポート（ ％） ☒ 課題（10％） ☐ 発表（ ％） ☒ その他（出席・態度 ％）									
教科書		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院									
参考書		角田直枝 編、知識が身につく！実践できる！よくわかる在宅看護、Gakken、									
授業の留意点・備考											

科目名	在宅看護論援助論Ⅰ	担当教員	大石 逸子 原口 真由美 松尾 祐子
-----	-----------	------	--------------------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義・演習
----	------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	-------

区分	統合分野	教育内容	在宅看護論	選択・必修	必修
----	------	------	-------	-------	----

担当教員の実務経験	訪問看護活動、病院での退院調整、地域連携、介護保険事業での地域行政との関わりの経験を活かし、病院から地域への移行支援、在宅療養支援の実践事例を交えて講義することができる。
-----------	---

授業概要	疾病や障がいもちながら地域で生活する人々とその家族に対して、在宅看護の基本的な考え方や援助方法、社会資源を理解し、地域包括ケアにおける在宅看護を理解する。医療依存度の高い療養者や終末期ケアについて学び、予防を含めた在宅看護を学習する。
------	---

到達目標	在宅看護の基本を理解し、在宅療養者と家族への援助および社会資源について説明できる。
------	---

授業計画	
------	--

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	地域における在宅看護のケアマネジメントを学ぶ。
2	チームアプローチと在宅看護の役割	在宅でのチームケアにおける多職種・諸機関との連携・協力・役割。
3	在宅看護の実践（１）	在宅で療養生活をしている高齢者（終末期）と家族への看護を学ぶ。
4	在宅看護の実践（２）	在宅で療養生活をしている高齢者（認知症・パーキンソン病）と家族の看護。
5	在宅看護の実践（３）	在宅で療養生活している成人（独居・脳卒中）と家族の看護。
6	在宅看護の実践（４）	在宅で療養生活している成人（人工呼吸療法・COPD）と家族の看護。
7	在宅看護の実践（５）	在宅で療養生活をしている小児と家族への看護を学ぶ。
8	在宅看護過程展開のポイント	在宅看護過程の展開のポイントを学ぶ。
9	在宅看護過程の展開方法	在宅看護過程の展開方法の実践について学ぶ。
10	事例による在宅看護の看護過程の展開（１）	療養者の情報収集・アセスメントの実践
11	事例による在宅看護の看護過程の展開（２）	全体関連図・ケアシステムの実践
12	事例による在宅看護の看護過程の展開（３）	看護問題・看護計画・１日の記録の実践
13	フィジカルアセスメント、緊急時の対応疼痛のマネジメント	在宅におけるフィジカルアセスメント、緊急時の対応を学ぶ。
14	療養上のリスクマネジメント、在宅看護における権利保障	医療事故防止・感染防止・災害時の対応を学ぶ。対象者の権利保障について学ぶ。
15	訪問時のマナー	在宅看護論実習時の訪問時のイメージを学ぶ。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	在宅看護技術(1)	療養者の日常生活を「生活行為」としてみていくこと、動作分析を学ぶ
17	在宅看護技術(2)	呼吸に関するアセスメントや在宅看護技術を学ぶ
18	在宅看護技術(3)	食生活・嚥下に関するアセスメント・在宅看護技術を学ぶ
19	在宅看護技術(4)	排泄・清潔に関するアセスメント・在宅看護技術を学ぶ
20	在宅看護技術(5)	移動・移乗・認知に関するアセスメント・在宅看護技術を学ぶ
21	処置別・在宅看護援助方法(1)	医療管理を要する人の看護を学ぶ(褥瘡・排泄)
22	処置別・在宅看護援助方法(2)	医療管理を要する人の看護を学ぶ(栄養・呼吸)
23	処置別・在宅看護援助方法(3)	医療管理を要する人の看護を学ぶ(外来がん治療・疼痛緩和)
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習(予習復習)の具体的な内容		疾病治療論、小児看護援助論、慢性期看護援助論、老年看護援助論の科目から各回に関連した学習内容を復習しておく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()
教 科 書		系統看護学講座 在宅看護論 医学書院、 角田直枝 編、知識が身につく！実践できる！よくわかる在宅看護, Gakken.
参 考 書		
授業の留意点・備考		実践の事例で講義します。不明な点は積極的に質問し、エビデンスを明確にしましょう。

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	統合分野	教育内容	在宅看護論					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		急性期病院の内科病棟・緩和ケア病棟・小児病棟で在宅療養の在宅移行支援や在宅療養中の患者家族への看護経験を生かして患者家族の生活を考えた看護援助を伝える。									
授 業 概 要		在宅看護論概論、援助論Ⅰにおける学習で構築された在宅看護観（在宅看護に対する考え方）をもとに、在宅における看護展開技術を学習する科目である。									
到 達 目 標		在宅看護の活動の場と訪問看護師の役割について理解し、在宅で提供する基礎的な看護技術を演習を通して身につけ、他職種と協働することが理解できる。 2事例の看護展開を通して、在宅で療養している患者の看護を理解し、在宅看護に必要な知識・技術を統合することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 導入			評価はレポート課題について、介護保険の理解、ICFの考え方							
2	訪問看護の特徴と時期			VTR「東久留米市の訪問看護実際」を視聴し考える。その後全体ワーク気付きを共有。							
3	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例			療養者の身体状況の理解・家族の思いと状況・退院計画の進め方							
4	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例			パーキンソン病について学習 ・疾患の理解・服薬・活動							
5	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例			ICF分析 動画：パーキンソン病の病態生理おさらい							
6	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例			ICF分析							
7	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例			グループワーク：全体関連図、サービス関連図。その後ワールドカフェ共有							
8	ALS 闘病記			ALS 闘病の理解。家族看護を考えるグループワーク。							
9	パーキンソン事例看護過程振り返り			パーキンソン事例看護過程振り返り。ALS 闘病記GW振り返り							
10	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例			ALSの動画、難病の診断、受容の課程 家族看護							
11	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例			全体関連図GW、 吸引・アンビューパック見せ説明。							
12	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例			・レスパイトする場合の連携 ・就労へのサポート・在宅療養システム関連図							
13	当事者（患者）の立場をほんの少しイメージしてみよう			ALS動画 「電車に乗る」 全人的苦痛シミュレーション 各自感想を書いて GW							
14	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例まとめ			ケアプランの実際。患者の希望に沿うには。							
15	在宅看護Ⅱ全体のまとめ・振り返り			国家試験で問われる内容と解説							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		在宅看護論概論の復習 テキストを読んで介護保険制度の基礎を理解したうえで授業を受けて欲しい。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☒ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 40 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（授業やグループワーク参加態度 ）									
教 科 書		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論概論 医学書院									
参 考 書		よくわかる在宅看護 改訂第2版 学研									
授業の留意点・備考		まず疾患の理解を促す。在宅看護は生活の部分的理解しにくいのでできるだけ写真や動画などの教材を多く取り入れイメージできるようにしたい。適宜国試で問われる問題を紹介する。									

科目名	看護管理					担当教員	岡田 玉子				
-----	------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	統合分野	教育内容	看護の統合と実践						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病棟師長の経験と幹部看護教員の経験を活かし、リスクマネジメントや看護管理について教授することができる。									
授 業 概 要		看護活動が有効に機能するための組織・管理について理解する。									
到 達 目 標		看護管理の目的・方法を学び、看護管理システムと危機管理(医療安全管理対策)を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくり(1)				危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくりを学ぶ						
2	危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくり(2)				危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくりを学ぶ						
3	マネジメント理論				マネジメントの原理・原則を理解する。						
4	マネジメント(管理)、組織化(理念)				組織づくりのしくみを理解する。						
5	マネジメントの実践				人、物、情報、時間のマネジメントについて理解する。						
6	マネジメントスキル				組織(図)とリーダーシップを理解する。						
7	関係法令(医療・看護)				時代の変化と制度の変遷を理解する。						
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		系統看護学講座「看護管理」(医学書院)、系統看護学講座「医療安全」(医学書院)									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名		災害看護				担当教員		園田 照子				
学科	看護学科		年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	統合分野	教育内容	看護の統合と実践							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		施設内における看護、野外看護や大量傷病者収療訓練、野外における救護活動などの経験と、カウンセリングの知識技術を活かし、災害時の看護師の活動や役割を学生に伝えることができる										
授 業 概 要		災害の定義、種類、特徴等の知識を得ることで、災害医療・災害看護は、災害の種類や特徴によって様相が変わることを理解し、イメージすることができるよう講義・演習等を行う。 また、災害看護は基礎看護をベースにし、各災害の特性や災害サイクルに応じ応用展開されることを学ぶ。										
到 達 目 標		(1) 災害の定義、種類・特徴を理解し、説明できる。 (2) 災害医療、災害看護の概要が理解できる。 (3) 災害サイクルに応じた看護活動と役割を理解することができる。 (4) 活動現場別の看護活動と役割を理解することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	(1) オリエンテーション (2) なぜ災害看護を学ぶのか				・講師自己紹介 授業の進め方についての説明 ・災害の定義と災害の種類・特徴、健康被害 ・災害看護の歩み							
2	災害医療の概要を学ぶ(1)				(1) 災害医療の特徴 (2) トリアージ (3) 災害対応にかかわる職種間・組織間の連携							
3	災害医療の概要を学ぶ(2)				(1) 災害サイクルと災害医療 (2) 災害と情報 (3) 災害と法律							
4	災害看護の概要を学ぶ(1)				(1) 災害看護の定義と役割 (2) 災害看護の対象							
5	災害看護の概要を学ぶ(2)				(1) 災害看護の特徴と看護活動 (2) 災害看護活動における情報収集・分析評価							
6	災害看護の概要を学ぶ(3)				災害サイクルに応じたと活動現場別の看護活動の概要 ・超急性期・急性期							
7	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動・超急性期・急性期				・超急性期・急性期における健康被害とその対応について、傷病者の動き、医療活動、看護活動等の面から考える。							
8	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動・亜急性期				・亜急性期における健康被害とその対応について、傷病者の動き、医療活動、看護活動等の面から考える。							
9	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動・慢性期				・慢性期における健康被害とその対応について、傷病者の動き、医療活動、看護活動等の面から考える。							
10	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動・復興期				・復興期における健康被害とその対応について、傷病者の動き、医療活動、看護活動等の面から考える。							
11	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動・静穏期				・静穏期における健康被害とその対応について、傷病者の動き、医療活動、看護活動等の面から考える。							
12	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動・静穏期				・静穏期における健康被害とその対応について、傷病者の動き、医療活動、看護活動等の面から考える。							
13	災害と心のケアについて				災害がもたらす精神的影響と被災者等の心のケアについて考える。							
14	災害看護のまとめと補足				災害医療・災害看護についての振り返りと質疑応答。							
15	学科試験				まとめと解説							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		1 授業の前日までに、教科書を読んでおくこと。 2										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☒ 課題 （ 10 ％） ☐ 発表 （ ％） ☒ その他（授業態度10%										
教 科 書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 第4版 （医学書院）										
参 考 書												
授業の留意点・備考		1 携帯電話の電源は、切っておくこと。 2 授業に関係のない私語は、禁止。質問や意見がある場合は、その都度挙手し指名を受けて発言する。										

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	統合分野	教育内容	看護の統合と実践						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		米国での看護と海外渡航経験を活かしたグローバルな視野での看護のあり方を教授することができる。									
授 業 概 要		様々な国や地域における健康の状況や健康問題を理解し、国際看護の視点を養うとともに、海外医療活動の組織や仕組み、看護の実際を理解する。									
到 達 目 標		1. 社会システム、保健医療システム、文化など保健医療・健康・看護の格差を理解する。 2. 国際協力を知り、文化に適した看護を考える。 3. 国内における格差や文化的差異を理解し、在日外国人の問題を理解し、看護を考える。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	概論（１） 国際看護学の概念と世界の健康問題の現状			国際看護学とは 先進国・発展途上国の健康問題							
2	概論（２） 国際看護の主要概念と国際協力			国際協力機関とプライマリーヘルスケア・ミレニアム開発目標							
3	各論（１） 異文化看護			異文化を理解する基本概念 グローバリゼーションと看護							
4	各論（２） 異文化看護			国際協力における情報収集・アセスメント・計画策定・実施と評価 国際協力活動の展開（グループワーク）							
5	各論（３） 世界の子どもの健康			栄養不良と成長モニタリング 世界の乳幼児死亡原因／予防接種と疾患管理							
6	各論（４） リプロダクティブ・ヘルス			妊産婦の健康と母子保健対策							
7	各論（５） 国際援助			住民参加と健康教育 ①国際緊急援助と住民の健康（グループワーク）							
8	各論（６） 国際援助			②国際緊急援助と住民の健康（グループワーク・発表）							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		国家試験に基づく練習問題									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（授業態度10% %）									
教 科 書		災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践3 医学書院									
参 考 書											
授業の留意点・備考		参加型授業とするため、積極的発言を望む。									

	臨床看護の実践	担当教員	長島 久美 吉田 香代子
--	---------	------	-----------------

学科	看護学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	統合分野	教育内容	看護の統合と実践						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合病院で、あらゆる健康のレベルの対象の看護や、さらに看護管理者の立場からスタッフへの関わりを経験したこと活かし、看護のマネジメントについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		「統合分野」は、知識や技術をすべて統合し、臨床の実務に近い環境で看護を提供する方法を学ぶ内容である。学内での事例演習において、看護業務に対するイメージをつくりあげることができるよう、タイムマネジメントに必要なアセスメントやケアの優先順位を決定する思考過程を体験し、さらに、実際に看護業務を演じることで、自ら検証することによって、看護マネジメントを学んでいく。									
到 達 目 標		卒業時に求められる知識・技術を習得し、対象の状態に応じた看護を実践する能力を身につける									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	優先順位	「優先順位」とは何かを事例を用いて理解する
2	時間管理・他職種との調整	「時間管理」とは何かを理解し、他職種の役割と協働について理解する
3	タイムスケジュールの立案	事例を用いて、タイムスケジュールを立案し、優先順位の決定につなげる
4	多重課題の優先度	多重課題が起きる場面を知り、事例をもとに、根拠を踏まえて優先順位の決定する
5	1日のタイムスケジュールを立案	事例を用いて、優先度を考え1日のタイムスケジュールを立案する
6	2例の事例紹介とアセスメント	複数患者の看護展開（事例紹介・アセスメント）をする
7	優先順位の視点について	複数患者の看護展開で優先順位の視点を学ぶ
8	複数患者のタイムスケジュール	複数患者の1日の看護計画のタイムスケジュールを立案する
9	患者の状態変化について	患者の状態変化の把握とタイムスケジュール変更の実際を学ぶ
10	優先順位	優先順位を明確にし確認ができる
11	タイムスケジュール	タイムスケジュール発表準備（GW）
12	タイムスケジュール	タイムスケジュール変更発表（GW）
13	緊急時の対応（計画）	緊急時の看護の実施するための計画を立案できる
14	緊急時の対応（実施）	緊急時の看護の実施を演習できる
15	複数患者の呼吸管理	気管内吸引技術演習

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	事例に関する疾患の理解ができるように教科書等を読んでおく
成績評価	☒ 定期試験（30%） ☒ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教科書	事例に関する教科書
参考書	事例に関する参考書
授業の留意点・備考	事例の展開になるため、不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。提出物については、期限厳守とし、守られなかった場合は減点とする。 複数教員のため、成績評価については授業中に説明あり